

## 小金井市立保育園の今後の運営に係る市民説明会 議事録

日時：令和3年12月5日 午後2時00分～午後4時30分

会場：小金井第一小学校

対象：市民

参加者数：14人

○三浦保育課長 それでは皆さん、定刻でございますので。

本日はお忙しい中、小金井市立保育園の今後の運営に係る市民説明会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

本日、司会を担当いたします、保育課の三浦と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、何点か皆様をお願いを申し上げます。

1点目、会場では携帯電話、スマートフォン等は電源をお切りいただくか、マナーモードにするなど、音が鳴らない状態にしていただきますようにご協力をお願いいたします。

なお、本説明会につきましては、市のほうで録音をさせていただきます。録音した音声を基にいたしまして、議事録を作成し、個人が特定できないように配慮した上で、後日市のホームページにて公開をさせていただきますので、あらかじめご承知おきください。

なお、個人のプライバシーに配慮するため、参加者の方による動画・写真の撮影、音声の録音は禁止をさせていただいてございます。ご了承くださいますようお願いいたします。

2点目でございます。新型コロナウイルス感染症対策といたしまして、説明会参加中はマスクの着用をお願いいたします。

なお、ご存じとは思いますが、学校敷地内全て禁煙となっております。おたばこはしばらくの間ご遠慮いただきますよう、お願いいたします。

本日の説明会につきましては、時間の関係等もございまして2時間を予定してございます。したがって、午後4時頃には終了させていただきたいと考えてございますので、あらかじめお伝えをさせていただきます。

本日は前回の説明会と同様の趣旨で開催をさせていただくものでございますので、資料につきましては前回と同じものを配付させていただいてございます。

なお、クリップボードにつきましては終了後に職員が回収をさせていただきますので、お帰りの際には資料を外して椅子の上にそのまま置いてご退出いただければと存じます。

ご案内は以上でございます。

それでは続きまして、本日の出席者を紹介させていただきます。

正面中央、小金井市長の西岡真一郎でございます。

○西岡市長 よろしくお願ひ申し上げます。

○三浦保育課長 正面左手、子ども家庭部長の大澤でございます。

○大澤子ども家庭部長 大澤でございます。よろしくお願ひいたします。

○三浦保育課長 正面右手、保育政策担当課長の平岡でございます。

○平岡保育政策担当課長 平岡と申します。よろしくお願ひいたします。

○三浦保育課長 それでは、会議に先立ちまして、小金井市長の西岡よりご挨拶をさせていただきます。お願ひいたします。

○西岡市長 皆様、こんにちは。小金井市長の西岡真一郎でございます。

本日は大変お忙しい中、また、日曜日の午後という時間帯にも関わりませず、「新たな保育業務の総合的な見直し方針（案）」にかかる説明会にご参加、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

この後につきましては、感染拡大防止の観点から着座にて、また、マスクをしたまま私も部長も課長もお話をさせていただきますことを、ご理解いただきたいと存じます。よろしくお願ひいたします。

前回、保護者説明会6回、市民説明会につきましては2回開催し、多くのご意見、ご要望を伺ったところでございます。その際、時間的制約のある中、重ねての開催をご要望されるご意見も多く、私といたしましても、引き続き開催させていただくことといたしました。そのため、本日の説明会は、初めてご参加をされた方もいらっしゃるかとは思いますが、この後、私のほうで若干お時間をいただいた後、再度、質疑応答、また、ご意見、ご要望を伺うほうに重きを置く会とさせていただきたいと存じます。

それでは、前回の保護者説明会も含めまして特に多くのご質問、ご意見などをいただいたものや、この間、多くご質問いただくものの中から、4点に絞って冒頭、私の考え方についてお伝えをさせていただきます。

1点目は、「廃園する理由」に関してでございます。

この間、段階的縮小の後に、廃園することを選択した理由は、市財政のみではないかとのご意見を多数いただきました。市が施策や事業を行うに当たりまして、財政の問題は無視できないものであり、これを念頭に置かずに事業を継続することはできません。そのため、今回の公立保育園の件につきましても、財政面が理由に含まれることは、事実でございます。

私といたしましても、市役所全体としての職員数の問題、また人件費の問題など、自治体経営という視点において、保育園5園を直営で維持し続けることは難しいという考え方を市長就任以来、持っておりました。

その前提の中で、今回の方針（案）を策定するに至った最大の理由は、公立保育園の運営者といたしまして、お子様の安全を第一に考えた結果であり、今後、公立保育園は整備しないという方針の下、老朽化が進む施設に対して今から対応を定めるべきと判断したからでございます。

そのほか、今後、人口減少が見込まれる中で、待機児童も減少傾向にあることや、公立保育園自体、維持していく上での人材確保の課題もあり、市全体におきましては、さらなる保育サービスの拡充や質の維持・向上のためにさらなる予算と人材が必要であることなど、様々な状況、背景を勘案し、策定させていただいたものでございます。

また、廃園の理由に関連して、今回の方針（案）では、小金井市の保育がよくなることが見えてこないというご意見もいただいております。跡地利用の件やサービス拡充の内容についての言及もございましたが、私といたしましては、別の施設を建てる代わりに公立保育園3園を廃園するというものではございません。同じ保育行政の中で、これまで対応できていなかったことに対し、対応・充実を図ってまいりたいと考えております。

この間、ご紹介しております、今年3月に策定しました、すこやか保育ビジョンは、保育の質に重きを置いたものとなっておりますが、これまでも課題となっていた多様なニーズについても記載しております。

以前から課題となっていた、特別な配慮が必要なお子様への対応、幼保小連携など、保育分野だけでも進めなければならない施策は色々ございます。今回取り組んでいく内容につきまして、詳しくは方針（案）の9ページ以降に記載しておりますので、ご覧いただければと思います。

2点目は、「在園のお子様への影響や対応について」でございます。

私としましては、園児が少なくなることに對するお子様への影響がないとは考えておりません。特に、異年齢保育が実施できなくなっていくことも、事実として認識しております。お子様の日々のケア、また、ご家庭の支援につきましては、現場の保育士に担っていただくことに勝るものはございませんが、現場任せというわけではなく、少しでも多くの取組ができるよう検討しているところでございます。このような中で園児が少なくなっても、お子様に対して何ができるかについては、現在、現場とも相談しながら保育課において検討を続けております。

これまでの説明会の中でも、その取組の一つといたしまして、例えば他園との交流、小学校との交流、地域との交流などをお伝えしてまいりました。中でも小学校との交流につきましては、保育園から小学校への接続という点で、未来の子どもたちのために今すべきことは何かという視点からの検討を進めております。この幼保小連携につきまして、市長部局と教育委員会という垣根を越えて、関係課で集まって、今後進めていくことを確認いたしました。

今後、この取組を進めていく中で、くりのみ保育園及びさくら保育園での取組にも力を入れていきたいと考えております。

3点目は、「転園を希望される場合の対応について」でございます。

私といたしましては、保護者の皆様が現状に大変満足されている中、お子様が少なくなっても現在の園に最後まで通い続けられるようにしていくことが重要と考えております。そのため、決して転園を促す仕組みを設けるという意図ではなく、転園という選択を考えられる方も実際にいらっしゃいますので、そのご要望に対して対応させていただくものでございます。

段階的縮小期間に転園を選択された場合、入所指数の加点などの対応をさせていただくことを考えております。詳しくは方針（案）の8ページ、9ページに記載しておりますので、ご覧いただければと思います。

4点目は、「今後どのような形で合意形成を取っていくのか」、「スケジュールはどのように考えているのか」についてでございます。

私としましては、公立保育園3園を段階的に縮小していくという考え方をお示しし、それを方針案という形にまとめ、現在、保護者の皆様、また、市民の皆様にも引き続きご説明しているというのが現在の段階でございます。

また、スケジュールという点では、公立保育園の役割や廃園に関し、有識者を交えた会議などで議論すべきというご意見、ご要望も多くいただいております。公立保育園の運営方法の見直しに関しましては、平成9年から長きにわたり、様々な場面での議論や検討が行われてきましたが、公立保育園の役割については、市の役割という形で整理させていただいたほか、施設老朽化などの課題も顕在化してきており、私としましては、さらに検討を続けるのではなく、市として判断をさせていただく時期に来ていると考えております。新たな会議体などの設置につきましては、現在、市議会にて議員の方から、会議を設置するための条例案が提出されております。それらにつきましては、議会のほうでご判断いただくこととなりますが、現時点での私の考えといたしましては、公立保育園の役割や廃園について議論する会議などを設置するという考えはございません。

そして、この先、どうしていくかについてでございますが、前回8回の説明会でのご意見、ご要望、また、今回、市民説明会を含め、さらに8回の説明会でのご意見、要望なども踏まえた上で、次のステップに移るかどうかは、私が総合的に判断させていただきたいと考えております。

したがいまして、現時点で、いつ、何を、ということは申し上げられる段階ではございませんが、以前にご提案のあった保護者の皆様や父母会役員の皆様の賛否を問うような形ではなく、様々なご意見を踏まえまして、私のほうで判断させていただくものと考えております。

以上でございます。本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 【質疑応答】

○三浦保育課長 それでは、質疑応答に進んでまいります。なるべく多くの方にご発言をいただきたいと考えてございますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

なお、発言に際しましては、着座のままで結構でございます。また、お名前につきましても、発言いただかなくて結構でございます。

職員が皆様のお近くまでマイクをお持ちいたしますので、ご発言していただく方は挙手にてお知らせをいただければと思います。

それでは、質疑応答に進んでまいります。皆様、いかがでしょうか。

では、後ろの男性の方、お願いします。

○参加者 本日は説明会、ありがとうございます。前日も出ていまして、そこでも意見を言わせ

ていただいたんですけども、そのときに継続的にという願いをする中で、今日開いていただいたこと自体には感謝をしております。

ただ、ちょっとどうしても決め打ちなタイミングで、僕自身も今日もかなり、ちょっといろんなところから手配する形で来たんですけども、結構、来たくても来れないという方もいたりとか、やっぱりこの師走のこの一日の、このタイミングというところもあるので、そういった意味での引き続きの意見の集約ですとか、収集ですとか、あるいは開催の仕方に関しては配慮いただけたらというふうに思っています。

今日なんですけれども、今日の趣旨が、前回の続きというか、前回は踏まえたものということではなくて、趣旨は同じというふうなお話だったんですが、前回こちらのほうも3点お話しさせていただいて、今、市長からのご回答の中にその3点全て含まれていたというところで、できる限り一方的じゃなくて対話にしたいなというふうに思っています。

その論点で、全部・・・（聞き取れず）ありがたかったと思っはいるんですけども、一つは廃園の理由ですね。二つ目は、小金井の保育のためになるのかどうか、この廃園がですね。あと三つ目は今後の手続という話だったというふうに、僕は今までそういうふうに言ってきたんですけども、その観点に関して、それぞれちょっと中身に関して話をしていきたいと思います。

廃園の理由に関して総合的というお話というのが今まであったんですけど、今日きちんとといいますか、説明としましていただいたのが、財政面に関しては理由の一つであると。ただ、それだけじゃなくて、子どもの安全、人口の減少に、待機児童の減少、人材確保というようなお話を伺いました。これ一個一個に関しては、もうちょっと、少し議論しているとは思っはいるんですけども、一つは人口の減少というか、待機児童に関しては、別に人が減ったから、例えば小学校にしたって、中学校にしたって、高校にしたって、あるいは大学もそうですけれども、人口が減少したからといって都立高校とか、国立大学とか、市立大学を減らすとか、そういう話ではなくて、やはり人口が減る中で、教育の中身を向上させていくとか、保育園でも保育の中身を向上させていくとか、全く違ったやり方、廃園というか、人が少ないからすぐなくすのではなくて、そういう中でもっと求められているものがあると。実際問題として、今、保育なり幼児教育というのは非常に重視されているので、減少でそのままストレートに廃園になるものではないというのは、以前の答弁でもいただいていたと思います。

あるいは人材の確保に関しても、こちらもありようで非正規雇用ですとか、あるいは手続面で難しく、手続が後手後手に回って、12月とか1月とか、ぎりぎりになって募集するような形だと難しいけれども、これも普通に非正規雇用を通常のやり方で、かつちゃんとした安定的に将来が見通せるような形で確保すれば、公立保育園に行きたいという人材というのがたくさんいるという話は、以前からしているというふうに理解しています。

この点に関して、じゃあきちんとしたお答えというか、もう少し、平行線で終わりということではなくて、ちゃんと話ができたかなと思いますし、こちらはどちらかという重要な論点ではないということであれば、やはり1点目に挙げていた廃園の理由として財政面の理由、ないしは子どもの安全の話と、建て替えの話ですね。

子どもの安全というのは建て替えをするかしないか、ないしはきちんと老朽化を止められるかどうかという話で、こちらも以前にお話しさせていただいて、老朽化対策という観点でいうと、過去は公共施設整備計画の中でも建て替えという言葉は一言も出ていなかったんですね。あくまでも長寿命化ないしは大規模工事という形をして、そういうことをやって20年30年もちますというのを、僕がきちんと運協の委員長をやったときに、そういう話を伺っていたんですよ。で、今すぐにも別に何かやらなきゃいけないという状況ではないというところに、その当時はっきりとそういう話を聞いていたんですね。

そういう話がある中で、いきなり、もうそれを理由に廃園だという話というのは、ちょっとやはり急でないかと。あるいは、どのような経緯でそうなったのか。ないしは大規模、長期化とか、長寿命化とか、そういった建て替えでないやり方、ないしは、建て替えにするにしたって、まずは、5年、10年ですぐに駄目になるという話じゃないと思いますので、そういったところをきちんと検討した上で、もうこれしか方法がないと。周りに土地がないと言いますけれども、別にやり方は幾らでも、今、市で余っている土地と言ったらあれですけども、実際問題として使われていない土地というのがあるわけで、なんにしるやり方というものもあるかなというふうに思いますので、そういうのをきちんと検討して、それでもできないといったところをちゃんと市民を含めて議論した結果として、もう、それしかないんだというのであれば分かるんですけども、そういうような状況がない中で、一方的に判断というのはちょっとそれは対話という観点ではどうかというふうにちょっと思ったりしています。

また、財政面での理由に関しても、それ財政面が理由でないということは、これはみんな分かっておりますし、それも一つだということは市民であれば、その状況というのは分からなくはないですね。

ただ一方で、やはりこれも価値観だとか、そういったことで言ったらきりがなくなってしまうんですけども、でも、今までできていて、公立保育園で、それを財政面を理由にして廃園するところ、それがやっぱり色がないので、お金には。そうすると、あまりこういうことも言いたくないと僕個人的には思っているんですが、ほかでいろいろ節約できるところとか、ないしは今、何度も言いますけど庁舎で100億とかという金額がある中で、そちらのほうを優先するという話というのが、やはり市民感覚としては納得がいかない。それ正直な市民としての気持ちです。

別に市庁舎を建てるのが駄目だとか、そういうことを言っているんじゃないんですが、市庁舎を建てて100億というお金をかけるにもかかわらず、じゃあ公立保育園を廃止しますと。どっちが大事ですかと言われたときに、じゃあ、その市民サービスを削ってまで市庁舎を建ててほしいかと言われたら、そうじゃないです。それは自身としての意見です。

その上で、財政を理由にするところというのは、正直言って、公立保育園が無駄だとか、あるいは、公立保育園が市民のためになっていないとか、大体、公であると無駄があるとか、やっぴり、こういってところというのは民間がやることで効率的にできるとか、もっといいやり方があるというときに民営化するものであって、何しろ廃園とかというのが出てくるというものであって、公立保育園がそれなりの役割を持って、しっかりと効率的に、かつしっかりと役に立っていて、それがみんなからも信頼をされているというようなものを、それを廃止する。やっぴりそこまでつくり上げてくるというのはすごい大変なことだし、そういったものを生かすのが、やはり公としての役割。それが無駄だったら廃止するというのが通常の感覚なんですけれども、廃園理由の中にやっぴりそういったものが一切ないんですよ。

だから、廃園理由として、そういったものが入ってくる、国鉄だとか、今まで国の事業なり、市の事業でやっぴり、これは無駄だから止めましょうという話だったら僕も分かります。だけれども、そういう理由ではなくて、単に財政ですという話というのは、これはやっぴり違うんじゃないかというところが、やっぴり廃園の理由の出発点です。

ですので、こういったところをきちんと、もちろん市長が最後に判断するというのは、

それは市長の権限、ないしは市長の役割で、それは否定はしないんですけども、しっかりと市民と議論をして、対話をして、その結果としても、これしかないんだという結論を出したというのであればそうなんですけれども、これ3点目になりますけれども、平成9年からやっているというふうに言いますが、こういった議論をしているか。してきていないんですね。全部上っ面の議論というか、自分がやっていて申し訳なかったところもあるんですけども、途中で止まってしまっているんですよ、議論が。

ですので、こういったところをきちんと回答なり、説明とかしていただいた中で進めていただきたい。ないしは判断していただきたいというところが、1点目及び3点目の一部の話です。

2点目の小金井の保育のためになっているかどうか。これについても、すこやかビジョンですとか、多様なニーズとか、そういったのを把握していただいているということに関しては、これは感謝をしております。それ自体は否定するものではないですし、必要なものだということで、素晴らしいことかと思っています。

ただ、やっぱり小金井の保育なり、小金井の今の実態というのをご理解いただく、ないしはその議論をしているかというところに関しては、以前申し上げさせていただいたとおりです。公立の役割、ないしは今、小金井市の公立保育園がやっていること、こういったことというのを、もう繰り返しになるので一個一個はここでは言いませんが、きちんと父母なり、市民なり、そういった方を交えて、どんな役割をしているのか、どんな状況なのか、それっていうのが本当に廃園しても残っていく、伝わっていくものなのか。ないしは小金井の保育、やっぱり公立が牽引してきたこと、このすこやかビジョン一つとっても、これつくっているのは先生がつくっているものですので、実態としてですね。そういったものが今後、実は人が減っていく、2園でいくということで、本当にそれで済むのかという話があります。ですので、そういったことも含めて、ちゃんと実態を踏まえた議論をしていただきたいというところです。

具体的に言いますと、じゃあご質問になりますが、1点目に関して言えば、しっかりと今言った長期化とか、そういったことの検討ないしは廃園に至る中で、もうこれしかないというところの検討というのをされているのかどうか。その観点でいうと、その長寿命化という観点ないしは建て替えをした場合のシミュレーションというのはどこまでされているのか。その資料というのはやっぱり出していただきたい。

ないしは、財政に関してもできないということの話でしたけど、実際問題として、こ

れがきちんと財政が今回廃園することによってどれだけ本当に浮くのかどうか。具体的に言ったら人を減らすと言いますが、首を切るわけではないので、そういった中できちんとどういった試算をされているのかどうか。ないしは本当に財政効果があるのかどうかですね。

補助金だけの問題というのは、補助金だけの問題という形で調整した上で、じゃあその補助金というのが市のこの資料に書いていますが、ずっと続くものではないと。いつ終わるか分からないと。ましてや、待機児がなくなる中で。そういったものを5年も10年も財政効果とって、市民にとっては財政的には補助金の意味がありますとかという説明なのかどうかというところを、ちゃんと一つ一つ具体的に確認をして議論をして、その上での判断というのがあるのかなというふうに思います。

2点目に関しましても、すこやかビジョン自体はありますし、それを浸透させるのも大事ですが、具体的には公立の役割とか中身というのを、ちゃんと具体的に市と公が一緒だからという話で一言で終わらせるのではなくて、どんなことをやっているのか、どういうことを保育をしているのか。それを一つ一つちゃんと検証するような場をもって、それこそ、そういうのが本当であれば運協であり、市民参加の審議会だと思えますけれども、そういうところで議論をした上で、その答申の中で、最終的にはこれは廃園という選択肢もあり得ると、こういうことをやれば廃園だね、してもいいねというような結論が出るのであれば、それは一つかと僕も思います。

3点目になりますけれども、今現状としては、廃園なり市の今の案に対して、具体的な市民参加による議論というのはしていないというふうに理解をしています。この説明会自体はその位置づけなのかもしれませんが、やはり説明会という場で一問一答というか、この程度の対応ですと、なかなかやはり議論の積み重ねづらい。メンバーも変わりますし。何回かやる中でお互いの言っていることというのは、またかみたいなどころはあるかもしれませんが、きちんと資料を使って膝詰めで議論をして、その結果というのをちゃんと市民に示して、今、本当はここに来たいとか、意見はあるんだけど、なかなかこの場に来ては意見までは言いづらい、ないしは、そういった時間がなかなか取りづらいというような人もたくさんいますので、そういった人たちに対して、これだけ議論したんだ、これだけやったんだから、大丈夫なんですといったものがしっかりと示せるものを出してから、そういった判断とか、結論というのを出すということにしたいだけないか。

今の1点目、2点目、3点目、それぞれご質問させていただきましたけれども、ご回答のほど、よろしく願いいたします。

○西岡市長      それでは、質問者の方から様々なご意見を交えて、ご指摘もいただきながら、多くのご質問をいただきました。大きくは3点なんですけれども、いただいたご意見にもややお答えをしながらも、お話をさせていただきたいと存じます。

まず基本的な考え方は、お配りしております資料、新たな保育業務の総合的な見直し方針（案）と、ホームページに公開してございますが、保育業務の総合的な見直しに係る見直し検討結果報告、この二つの資料を公表してございます。

また、市議会などでは、いただいた資料要求などに基づいて、様々な資料も併せて関連する資料も公表させていただいているという状況です。

その中で、廃園の理由、段階的縮小から廃園という理由につきましては、冒頭私のほうで申し上げさせていただきましたとおりです。そして、この資料の中にも明記をさせていただいておりますが、施設の老朽化、人材確保、費用負担、そういう大きな3点。プラスして、これからの動向といたしましては、待機児童の減少、そして、年少人口の減少という状況の中で、今後は保育の定員数ということについても、しっかりこれは小金井市の役割として、市全体の保育定員数というのは適切な状態を保っていかなければいけないという状況が必ずやってきます。

そして、保育ニーズにつきましても保育の質の向上をするために、小金井市としてどうしても対応させていただきたいと考えているメニューにつきましては12ページに書かせていただいているとおりでございます。さらなる予算や人材が必要となってきているということも踏まえております。

まず長寿命化についての検討はしたのかということでございます。施設の個別計画を策定する中で一定の方針は持っておりますが、対象となっている、くりのみ、さくら、わかたけにつきましては、建て替えるという方針や長寿命化を行うという方針は明記はしておりません。長寿命化の場合も幾つか課題はあろうかと思っておりますが、一般的には長寿命化というと、これはかなりの規模の大工事になります。そうしますと通常の保育を行いながら、当該敷地の中で恐らく保育を継続することは困難であろうということは予測がつきます。

したがって、その場合は代替の施設をどこかに一定期間、また、工事の期間も一般的にはかなりの期間となります。数か月で終わるような工事ではありませんので、1

年という年単位の工事になる可能性も否めないと思いますが、その場合のことを考えてみましても、単に敷地を確保したり、土地を確保したり、代替の施設を造るということまで想定をしなければいけないということでは、かなりの大事業になるということは想定がつくところであります。

施設の老朽化という現状もありますが、それ以外の理由も含めまして、全体的な判断といたしまして、小金井市としては、この新たな保育業務の総合的な見直し方針（案）を策定させていただいたものでございます。

民間保育園の運営費などがずっと続くという前提に立って財源コストがつくられているのではないかと。財源捻出といいたまいますか、財政効果ですね。ということでございます。まず今般は、小金井市の場合のお示ししたものであるというのは、公立保育園の運営費などのコストや人件費などのところに着目をしてつくらせていただいた10年間の経費比較ということで、27.1億円、令和4年から令和13年ということで計上をさせていただいたものです。ランニングコストのみの比較で言うと3.4億円ということになります。この中には、廃園後のサービス拡充分、人件費を含んで比較しているということ。また、この中には、旧園舎の解体や仮園舎建設及び解体、仮園舎用地、借用費用などは除いて計上させていただいたものであります。

国や東京都から民間保育園には、実に多様な補助制度または運営費の補助があります。私といたしましては、東京都市長会や、ときに小池百合子東京都知事と直接お会いをして意見を、あるいは要望を伝える機会が最低必ず年に1回はあると同時に、東京都市長会を通じて様々な意見・要望を、緊急時も含めて何回も行っております。その中には、私自身も含めて、保育園に関係する様々な補助制度をぜひ継続していただきたいということは強く要望し続けております。

したがって、この子育て・子育で・教育環境の向上の中で、東京都においても様々な施策が複合的に行われておりますが、市区町村の支援については大切な制度なので、その継続はこれからも強く要望し続けてまいりたいと考えております。

また、検証について、この議論の進め方、手続などについてということでございます。公立保育園の運営自体は、これはあくまでも小金井市であります。その中で庁内で検討し、そして平成9年から実に様々な議論が行われてまいりました。今般の方針案を策定し、その情報を共有し、いろいろなご意見をいただくために、この間、名前は説明会ですけれども、皆様方といろいろなご意見を拝聴しながら、この説明会を継続的に

開催をさせていただきました。そういう意味では、私といたしましては、このいただいたご意見を踏まえて、今後総合的な判断をさせていただくということで、先ほどご対応をさせていただきました。

冒頭、私からは以上でございます。

○平岡保育政策担当課長 幾つかお話があったので、若干1点だけ補足をさせていただきます。

補助金というお話を具体的にというところではありますが、施設の確かに建て替えは補助金なんですけれども、運営費のほうは補助金という仕組みではなかったのではないかと考えております。それは運営費のほうでのお話で言わせていただくと、そうしますと、自治体のほうで行っている全ての事業が、国や都からお金が入って来ない状態も含めて、考え直していかなければいけないということになってしまうかなと思います。

公定価格と言いまして、運営費については補助金ではなくて違う形で、制度として負担する割合が決まっているものだというふうに思っていますので、その制度自体が変わって、今後、変わるかもしれないというお話になると、全ての事業費について国や都の補助がどうなっていくかというのを気にしながら考えていかなければいけないということにもなるかと思っておりますので、特に福祉関係は国や都の補助があって成り立っている事業が多々ございますので、そういった面でも、そういった立場で私たちのほうは今後の見込みについて考えさせていただいているということだけ補足をさせていただきます。

○三浦保育課長 男性の方。

○参加者 ありがとうございます。すみません。ご答弁ありがとうございます。ちょっと正直申し上げると、冒頭でいただいたご説明に対して、お示しさせていただくと、どうしても回答が、総合的ということもないか、全体的とか、あるいは若干こちらが言っていることとかみ合っていないなと思うところが正直あります。

具体的に言いますと、1点目のところなんですけれども、こちら長寿命化について、検討したのか、していないのかということに関しては、それは長寿命化をする考えはないと、最初からないというようなお話だったんですけど、それはおかしくて、それはもうあるということは僕はずっと聞いてきましたし、ちょっと今、一個一個資料とか、ここに出しませんけれども、その考えがなかったことはないはずなんです。

実際に、今、市長のほうから答弁として、長寿命化すると非常に、園舎の建て替えと同じように場所を移動しなきゃいけないとかという話もありましたが、実際過去にやっていて、それが同じ園舎の中でやっているんです。実態としてできないことはないんで

すね。

そのときもいろいろと園庭が使えなくなるという話もありましたけど、それは資材を屋上に置いたりとか、いろいろとタイミングを見計らったりとか、それこそ市民、我々保護者も一緒になって、耐震工事だとか、大規模改修とかとやってきた実績があります。

ですので、そういったことを踏まえずに、今そういったような答弁をされているということ自体が正直残念です。残念です。ですので、やっぱりそういったところをしっかりと踏まえて、きちんと理解していただいて、いや、それでもできないというのであれば、それはこちらのほうもしようがないかなという判断というか、その判断に対する納得性というのも上がってくるんだと思いますが、今この時点で、今のご答弁で、納得してくださいとか、あるいは一方的に我々のほうで判断させてくれと言われても、それは、そうですね、了解しましたというのは、なかなか言えないんです。

もちろん、こちらの意見は関係ないんだと言われてしまえば、もうそもそも対話にならないんですけれども、せっかくこういう対話の場を設けていて、こういったような形でやっているのであれば、こちらの意見というか、実態というのもしっかりと理解をして、持ち帰っていただけないかと。まずはその点に関して、その基本的な方針が違っていると、話をしてもしようがなくなってしまうんで、ご回答いただけないでしょうか。

ごめんなさい、市長に……。

○西岡市長 一緒に答弁しますので。

○参加者 そうですか。

○平岡保育政策担当課長 過去の工事のところ、おっしゃっているとおり耐震工事とかをやっていますので、そういうことは過去に当然あったらろうというふうに思っています。

今回お話をさせていただいている部分については、当然、長寿命化という工事、工事としてはあるかとは思っております。ただ、園をそもそも維持していくかどうかというところの考え方と、建て替えていくかというところの考え方もあるかなと思っております。以前は、特に耐震工事などについては、その保育園を引き続き継続していくという前提の中での考え方があったのではないかなというふうに思っております。

私たちとしては、民営化のときもそうですけれども、公立保育園の5園の維持がなかなか難しいという考え方をもちながらの検討という状況もございましたので、そういった意味では、当時のときと考え方が変わったのかと言われてしまえば、その当時の、申し訳ないんですけれども、ご説明した人間と違う人間が今しゃべっていますので、全く

同じことを再現できるかどうかは分かりませんが、今こちらとしては、市長のほうから冒頭、お話しさせていただいた中にもありましたけれども、5園の維持がなかなか難しいという中での考え方というところでのお話になるのかなというふうには、ちょっと私のほうでは思っております。

○大澤子ども家庭部長 もともと行革と一環というふうな形の中で様々なことがあったかなと思っております。担当課長のほうからもお話がありましたとおり、我々としても、なかなか全体の中で5園を維持していくことは難しい中で、どのような方法があるかというところ、作業を進めさせていただきました。

そういったところの中で当然、園が年数が来ているというような観点があったり、あと、我々からしますと保育にける予算、様々な予算の持続というところと、やはり市民サービスの向上をするためにはどうしていくかというところも踏まえた中で考えてきたというところ、

そういったところの中で、一番最初に民営化というものを正式に、委託も含めてでありましたけれども、出させていただき、一定、もう一回考えるというところがありまして、今回考えさせていただきました。

先ほどのお答えのように、なかなか現状として公務員を増やせるというふうな状況も、我々としては過剰という言い方は変なんです、あまりない中で、どのような形をしていくか。また、今まで培っていた公立保育園のノウハウをどのようにしていくかというところも踏まえた中で、市民サービスの拡充というところに進めるためには、市職員を集約させる、そういうふうな形の中でどのような選択肢があるかというところも考えさせていただき、一定年数のある中で対応させていただき、安全面というものも考えた中で、今回は3園につきましては長寿命化という選択ではなくて廃園というふうな形で方向性を出させていただき、現在、今、皆様方にお話をさせていただいているというふうな形で、まず私のほうからもお話をさせていただきたいと思っております。

○西岡市長 今、課長、部長からもご答弁をさせていただきました。施設の老朽化、この課題が仮に改善したとしても、人材確保の観点や費用負担という観点は残ります。そういった意味からも、今、小金井市全体のことを考えて、そして、保育の全体の向上のために今置かれている状況を踏まえて判断をさせていただきました。

また、長寿命化ということになった場合は、これはかなりの大規模な工事になることは想定されるところでありまして、私としても長寿命化を図り、公立保育園5園を直営

で維持していくという考え方には立ってはおりませんので、その検討はしてはいいないということでございます。

○参加者　　ご答弁ありがとうございます。すみません。ご答弁をいただいたのはありがたいんですが、ちょっとやっぱり質問の意図と、こちらのいただいている回答がちょっとずれてる。

こちらがご質問させていただいたのが、長寿命化に関して検討しないということは分かりました。ただ、もう検討しないけれども、判断しますということに対して、こちらが意見として持ち帰って検討してもらえないのかと。判断じゃなくて、ちゃんと対話をしたいんだという話をしたんですね。今日、この場で。それに対して、対話をするつもりがあるのか、ないのかという、ちょっと言い方はきついですけれども。この場で持ち帰ってきちんと検討していただけるのであれば、それも一つの対話にはなると思うんですけれども、そこがまずどうかというところが、まずありますと。

さらには、鶏と卵が逆になっているんですね。ご説明が、廃園なり総合的見直しをしなきゃいけない理由として、この大規模改修が難しいとか、建て替えは難しいとか、そういう話だったんですけども、今の話というのは、廃園をするから大規模改修とか建て替えはしないんだというふうにしかな聞こえないんですよ。ですので、鶏と卵が全く逆で、そういった考えを持っていないから検討していないんですというのは、それはもう対話にならないじゃないですか。

ちょっとやっぱり、そういった総合的という判断は最後の最後に使うのはあるかもしれませんが、まずは一個一個対話をするために、一つ一つ丁寧に議論したいんですよ。そのために今のようなご質問というのにしっかりと答えていただいて、その上で最終的に総合的というのでしたらまだ分かりますけど、今このタイミングで一つ一つの回答に対してちゃんと答えていただけていない中で、総合的というふうなお話をされても、なかなかそれは難しいんじゃないかと。

ちょっとごめんなさい。2点目とか3点目とかという保育の話とか、今後、手続の話もあるんですけど、まずこの建て替えなり改修なりというところの中で、あるいはこの基本的な考え方について、ご答弁いただけないでしょうか。

○西岡市長　　こうした説明会の場でいろいろなご意見をいただいています。そして、もちろん持ち帰ってその改善について、でき得る、持ち帰って検討できるという内容であれば、それは当然のことながら必要だと思いますし、また、この間、たくさんの説明会を行って、

そして多くの方々からいろんなご意見をいただいておりますから、そういったご意見もちろんこの後、私を含め、最終的には私が判断することになるわけですが、いただいたご意見をしっかり見せていただくということにももちろんなります。

しかしながら、個別計画というものを小金井市は公共施設のいろいろな全ての作業をする中で、庁内で検討作業は行わせていただいておりますが、既にその個別計画は策定してございまして、その中で方針についても打ち出させていただいていることは事実でございます。

そういった意味で、段階的縮小から廃園にするという理由があつて、その後から長寿命化をしないということの段取りで組んできたわけでは、もちろんありません。施設の老朽化という現実を目の当たりにしたときに、やはり全体的な市の財政を考えれば、建設コスト、また土地の確保、解体費用、そして、場合によってはプレハブというか、暫定園舎になるのか。これは手法によって変わってきますけれども。あるいは長寿命化ということになっても、これは相当な大規模な工事になりますので、通常の保育を行いながら実施するということは、非常にこれはもう困難であると。必ず何らかの代替施設なり、これは必要になってくるし、子どもたちを預かっていますから、命を。大切な命を預かっていますから、それは部分的な対応をする中で、現地再整備というのは非常に困難さが伴うということをお願いしているんです。100%になるというか、必ず困難さがあり、通常の保育業務にかなりの支障を工事によって来すことは、もう間違いありませんので。これは、大規模改修というのは、長寿命化改修というのは非常にこれは大きな工事になりますから。それは現状の保育にも大きな影響が出ることは、これはもう言うまでもありません。間違いのないことです。

しかし、今ある現状を考えたときに私としては、市長としては、この公立保育園の老朽化対策については、建て替えるということや、長寿命化によって園舎を、長寿命化の場合はもう50年超えていますので、仮に長寿命化をすとしても、一定年数が限られてしまうということもありますから、そういった意味では長寿命化方針を行うということは、今、私の中では考えてはいないということをお願いしております。

○平岡保育政策担当課長 ちょっとまたこのご説明をすると二転三転しているというふうにお話をされるかもしれないんですが、現在の個別施設計画の中でロードマップというのを書かせていただいております。ただ、これは、これで全て決まるものではなくて、検討すべきものがあれば検討する必要があるものもあるかと思いますが、この中で今回挙げさせていた

だいた、くりのみとさくらについては、令和12年度までに部位修繕を実施というような書き方をさせていただいております。そのような部分もありまして、長寿命化というような記載をしている施設もこの中にはあるんですが、少なくともその2園については、長寿命化というようなお話にはなっていないかなと思っております。

ただ、全体の中でまた見直し等を行っていく必要はあるかと思っておりますけれども、保育園以外も含めてですけれども。そういった中での調整はあるかと思いますが、現在そのような記載になっているということだけはお伝えをさせていただきます。

○三浦保育課長 女性の方。

○参加者 ありがとうございます。

ちょっといろいろありますけれども、1点だけ教えてください。ふるさと納税ってありますよね。今、小金井がどういうふうに、システムというか、返礼品をやっているかわかりませんが、実はテレビを見ていて、某北海道の市がふるさと納税で、要するに運用先というの、使い方を決めて、返礼品は何か知りませんが、保育園とか子ども施策に使いますということでふるさと納税で集めたら、結構な額が集まって、それでもって保育、就学前の子どもたちの処遇がよくなる施設面とか、親御さんたちにいろんなものを無料にして、サービス向上を図っていますというのをやっていました。本当に運営の仕方も含めて、工夫次第だと思うんです。

先ほどから伺っていると、もう一点張りで、公立の5園が直営でやるのはなかなか難しいというふうに、ずっと思っていましたというふうにおっしゃっていますが、その根拠、行革大綱みたいなのが1996年ですか、結構、行革が進む抜本的な大きな取りが国政レベルというか、そういう指令があったところで、それを金科玉条のように、行革なんだからといって、今この現実どうなっているかというのをやっぱり見ていただきたい。誰が責任を持ってこれからの子どもたちの育ちを保障していくのと、児童福祉どうなるのという観点からいけば、やっぱり5園を維持するのがなかなか難しいとおっしゃる、そのなかなか何なのって。

1個だけ聞かせてください。このふるさと納税のことは事例でお話しただけで。

じゃあ、西岡市長が市長になられてもう6年になりますよね。再選されて。その間、6年前というのは、公立保育園の運協等々で民営化も含めていろんな話がなされていますよね。随分親御さんたち、保護者たちが集まって。そのときに市長になられて、恐らく公共施設の老朽化とか、いろんな問題もある中で、市長になられたと思うんです。そ

のときには、市議会議員もなされていたわけだから、どういう認識で、この公立保育園の問題を捉えて、もうそのときから、行革だからなかなか難しいと。でもう、民営化の問題も出ていると。直営はもう無理だなという、そういう認識を持ちつつ市長を続けられて、今に至ったのかどうか。

やはり長く市民で、ここで育ったわけじゃないですか。子どもはやっぱり大事じゃないですか。その子どもが育つ環境を整えるのは、やっぱり大人の責任でしょう。なので、誰が責任を持つんですか、これ、廃園になった後のこと。そのプロセスも含めて。

だから本当に、一番抜本的に子育てというのは、人類が始まってからずっとやっているんですよ。だから、いい加減なことを言わないでじゃないですけど、本当になかなか難しいとか、何を言っているんですかって。ちゃんと中身をきちんと、じゃあ廃園方針にしますと、話し合った内容すら、メモもありませんという形で、議会が資料請求しても、それこそなかなか出てこないような、本当にもう不信感いっぱいですよ、市民は。何を言っているのって。誰が責任を取るのと、子どもたちに。

結局、皆さんは全員退職されて、それで退職金もらって、悠々自適で暮らしていくわけじゃないですか。で、泣くのは子どもですよ。あるいは親ですよ。だから、本当に真剣に考えてほしい。

本当に私が決めますというふうにおっしゃる。じゃあ西岡さんが責任を持つんですね。今日の発言も含めて。いろんなことが起こるでしょう、子どもの現場。

だから、そこまで考えて、何ができるか検討してくださいよ。ふるさと納税も含めて。マジで言っているんですよ。もう行革なんかやっている場合じゃないですよ。子ども死んでいきますよ、精神的にも。殺されていくじゃないですか。だって一番大事ですよ。ゼロから6歳。どれくらい大切に思われたか、もう子どもは見ていますよ。

お願いだから、最後に私が決めますというなら、こんな説明会いらないでしょう。そうでしょう。頼みますよ。私は、老人は先に死んじゃうから心配でしょうがないですよ。小金井育ちでしょう、皆さん。小金井を愛しているんでしょう。だったら、やっぱり子どもに対して、それに恥じない行政をやってくださいよ。なので、ひとつ、ふるさと納税どうって。

○西岡市長　大変厳しいご意見をいただきました。私は、ちょっと青臭いことを言うかもしれませんが、小金井市のまちで誕生した命、あるいは転入されてきた方も含めて、もうどの命も、小金井市で育む全ての命は、何よりも大切にしなければいけないと、重たいものだ

と思っています。もちろん子どもだけじゃなくて、市民の命は当たり前の話です。でも、その当たり前の気持ちを持っていないだろうと言われてれば……、

○参加者2            じゃあやりなさいよ。

○西岡市長            ちゃんとお答えさせてください。

○参加者2            いいでしょう。聞きましょう。

○西岡市長            持っています。そのために努力はしています。

○参加者2            当たり前です。

○西岡市長            そして、子育て・子育て・教育環境の向上こそが小金井の持続発展に向かって非常に重要なことなので、そのことに向かって日々努力をしてきている、今渦中にあるというふうにご理解をいただきたいと存じます。

                  幾つも聞かれていますように、質問はふるさと納税のことだけじゃないと思うんですが。

○参加者2            そうです。

○西岡市長            たしか、7年前に小金井市の市長選挙の際に、名称は忘れちゃいましたが、保育園関係者の方が開催した公開の候補者討論会というのがありました。公開の下で開催されたもので出席いたしました。そのときに、公立保育園に関する考え方を表明する機会か、あるいは参加者の方からのご質問か、ちょっと正確ではありませんが、私の考え方は市長選挙の際にはっきりお伝えしております。

                  そのときには、公立5園を直営で維持していくという考え方は持っておりません。半分以上は民間活力を導入するなど、これから公立保育園の直営ではない運営方法を小金井市は展開していくべきだということは、はっきりと申し上げさせていただきましたので、その状況から私の市長就任期間はスタートしてきているということでございます。

                  しかし、その間、民間委託などについての労使合意や、また延伸、そして、今般の新しい保育業務の総合的見直し方針（案）ということで、この6年間の中でいろいろな経過がございました。

                  それから、ふるさと納税でございますが、ふるさと納税は、現状は、手短かに申し上げます。ふるさと納税は寄附をする際に、寄附の使い道を選択することができるようになっていまして、教育に関すること、みどりに関すること、福祉に関すること、環境に関すること、新型コロナウイルス感染症対策に関すること、小金井市を応援します（市長に一任）ということで、項目が分かれておりまして、この項目につけていただいた上で

ご寄附をしていただいているという状況であります。

冒頭、私からは以上です。

○大澤子ども家庭部長 誰が守るか、保障するかというふうな形の観点でいくと、子ども家庭部という形の観点からいきますと、もう私はゼロから18歳まで所管をしているというふうな形になります。そういった状況の中で、妊娠、出産、子育てを通じて切れ目のない支援をしていくというような形の大きなお題目をもらっているかなと思っています。

子ども家庭部だけではなくて、健康課のほうでお子さんが生まれたら妊婦面談というような形をし、そこに支援が必要であれば、その隣に子ども家庭支援センターがございしますので、そこで連携を取っていくという形で、今、包括センターの機能強化というのもさせていただいております。

そういった状況の中で、公立のお子さん以外でもやっぱり気になるおさんは、それは幼稚園だろうと、そういったところもありますので、子ども家庭支援センターが毎年各園のほうに回りながら、そういった状況も報告させていただきながら対応しているという状況はございますので、そこだけはすみません、私のほうから少ししゃべらせてください。

以上です。

○三浦保育課長 よろしいですか。

○参加者 もう一遍確認でいいですか。選挙で市長に選ばれたというときに、先ほど直営ではなくて、民間委託も考えていくんですというふうに私は答えた。それをもって、市民の方に選ばれたということですよ、市長になられているということは、一つだけじゃないですけど、いろんな意味で。

なので、それに基づいて、いろいろあったが今に至って、説明を丁寧にしつつ、最後は自分、市長としての判断をしていくというふうにおっしゃっているということですよ。

○西岡市長 はい。

○参加者 なので、結局、この方針というの、民間委託が駄目という、いろいろやったけど、6年たっているんですよ。ということは老朽、それでも、そのとき40だったら46になっているわけですよ。年を取りますよね。それと同じように、やっぱり園舎とか、建物も幾ら丁寧に使っても、やっぱり傷んでいきますよね。なので、その時間軸の中で結局、外目から見れば、あっ結局、万策尽きてぎりぎり民間委託にならずに、なか

なか、膠着状態になって、もう万策尽きたと。これ以上、話し合いというか、親御さんとの話し合いができそうもないから、という形で廃園というのが突然出てきたというふうに見えるんですよ。

なので、いろいろ考えました。いろんな検討をしましたと言うには、やはり時間、6年間、あなたにとって、西岡さんが今日に至った6年間というのが結局大きいじゃないですか。で、今はもう会議体も再検討するつもりはないということであれば、この説明会は何という。常に、じゃあ何を言っても覆らない。じゃあ、もう一遍ちょっと検討してみますとか、そういうことがなければ、結局、施設はどんどん老朽化していくわけだし、意味ないじゃないですか。

だって、そうでしょう。会議体つくるつもりはないということをおっしゃるし、本当に聞いていない、会議体の方々も、いきなり出てきましたねと、この案がと。子育て会議の方々も知らないというような状態の中で、じゃあ市民が声を届けても聞かないんだったら、意味ないですよ。

そこら辺を本当に、じゃあ首長を代えるかと。リコールするかと。そういうふうに過激化するというか、そういうことはあまりしたくないんですけど。そういうことになりますよね。だって、聞いていただけないんだから。で、納得していないんだから。でも一部の人たちでしょと。私は選挙で選ばれたと、おっしゃる。

でも、納得していないのが一定程度あって、とにかくストップして、もう一遍検討してくださいというふうに保護者の方もおっしゃっている。そこが駄目なら、説明会の意味は何ですか。皆さん貴重な時間をつくって、気になるから、おかしいから、納得したいから、皆さんいらっしゃっているわけじゃないですか。

そこら辺のところを、西岡さんとしては市長として、市民がこうして熱くなって、お願いなり、再検討も含めてお願いしているのに、これじゃあ話にならないというの。会議体をつくるつもりはない。最後は判断して、なかなか難しいから自分で判断すると。もう判断が先にあるじゃないですか。だって、覆さないんでしょう。廃園案を。

だって、もう最初からそうだっておっしゃっていたじゃない。5園の直営は難しいというところからスタートしているんだから。当然、なりますよね、この帰結に。西岡さんの流れ的には。あるいは行革という大義名分というか、そのもの自体が。これだけの、二十数年の、何ていうのか、日本の福祉を、壊してきたと私は思っているんですけど。

そうしたら大前提として直営はしないと。全部はしないと。ところで、私、知らな

かったの、そこは。西岡さんが選挙に出られたときに、そういうふうにおっしゃったというのは。多分どこかで話は聞いているはずだけど。ごめんなさい。そういう方だった。もちろん投票したかどうかは別としてよ。そういう方針、考えを持っていらっしゃるの、私は知らなかった。初めて聞いた。そのときに立候補されるときにね。

なので、ああそうかと合点でもないですけど、だったら意味ないじゃんって。最後に自分が決めるでしょう。だったら何なのという話です。私としてはなっています。

以上。もう言うことないわって。

○三浦保育課長 すみません。ご意見でよろしいですか。

○参加者 はい。

○三浦保育課長 では3列目の女性の方。

○参加者 本日も市民向け説明会の開催、ありがとうございます。前回、前々回と参加しましたが、納得のいく回答は得られなかったもので、本日もまた参加させていただいています。

お願いと質問があります。まずお願いします。

廃園の検討を市の内部では、保育課さんですね、1年以上前の昨年7月から実は民営化の方針から変えてやっていたらということですので、保護者向け説明会や市民向け説明会も1年以上かけて丁寧に対話を実施してください。

また、廃園を発表されてから、急に始まった説明会ですが、10月以降から年明け、年度末にかけて、これから物すごく皆さん忙しい時期ですので、自分の参加可能な保育、保護者だったり、対象園だったり、一般市民の枠だったり、合わせて参加するというのはなかなか皆さん難しいとおっしゃっている方が本当にたくさんいらっしゃいます。

今年の9月市議会に市民から提出されています、利用者等との十分な協議・理解を得ないまま公立保育園の廃園への準備行為の中止を求める陳情書は、市議会の全会派一致で賛成されていることは皆さんもちろん心に受け止めていらっしゃると思いますし、その署名は僅か一、二週間で7,000筆を超える数が集まっているようなものです。

なので対象園3園、対象外の園の保護者、市民と区切る必要があるのかどうか。適切な開催時期や開催回数や日時、時間帯について再度熟考していただき、引き続きの開催をお願いいたします。お願いはここまでです。

次に質問です。

何度か、この廃園の説明会で、公民ベストミックスでやってきたとおっしゃられていますが、今この第一小学校の近辺だけを取っても、新しくできた保育園のお散歩中にど

んな言葉がけや対応がされているのか、実態をご存じでしょうか。保育園に朝のお散歩から帰るのを渋った子どもに、「じゃあ、〇〇ちゃんは昼ご飯なしだね」と言って、お子さんが大泣きしながら園に帰ることになったり、また別の保育園ですが、1歳代のようやく歩けるようになってお散歩の楽しさが分かるようになった子どもたちを連れながら、子どもたちの興味・関心に応答的な対応をするのではなくて、大人2人が会話をし、この辺に家を買いたいな。え、でも高いよ、でもではないですけども、プロとして、子どもたちがその時々や季節や発達段階に応じた対応をしてもらえるのかなというところが、プロとして信頼して任せて大丈夫なのか、非常に私は不安になりました。

さらに、児童発達支援センターきらりの専門職員の方も、きりり利用中の子どもたちへのきりりへの対応や、保育園等での対応に生かしてもらうために、実際に私立保育園、公立保育園、どちらにも様子を見に行ってくださいますが、小金井市の公立保育園は非常に対応が丁寧であるとおっしゃっているのは、ご存じですか。質問の部分です。

公立保育園の役割は一度も明確にされていません。今でも謎です。ただ、市の保育課さんが主導して実施してきているベストミックスの事例があるのであれば、具体的に何か一つでもいいので、今、挙げていただけないでしょうか。お願いします。

○平岡保育政策担当課長 ご質問はベストミックスの例があれば挙げてほしいということで、よろしかったでしょうか。

ベストミックスについては、これまでも市長のほうからも様々な場面でお答えをしておりますけれども、公立、民間、それぞれ歴史があって小金井の保育を支えてきていただいた。それをベストミックスというお話をさせていただいていたかなというふうに思っております。

いついつからどうのということではありませんけれども、過去には延長保育時間を長くやっていただくような対応については、公立保育園、公務員ですので、なかなかそういった部分が難しいところを民間さんが先んじてやっていただということは、恐縮ですが伝聞として聞いております。また、柔軟性が高い保育をやっている保育園さんも多々いらっしゃるというふうには認識をしております。

具体的に、いつ、どこで、どのようなところについて、こちらのほうで申し上げられないのは誠に申し訳ありませんけれども、例を挙げればそのような形で民間さんの特性を生かした保育をやっているところもありますので、そのようなところをもってベストミックスというような言い方をさせていただいているというふう

に認識しております。

○参加者 延長保育を事例に挙げてくださったので、そこについて保護者としてちょっと思うところがあるので、ここで発言させていただきたいです。

確かに市内で8時とか7時半とか、公立保育園の7時より長くやっていたらいいところはあるのですが、実態としては結構お断りされる保護者が多いです。利用者の人数の少ないので使わないでほしいとか、こんな時間まで預けるのはかわいそうだと、夕飯を保育園で食べることになるのがいいことなんですかというような形で、暗に断られるような言葉を言われたり、お宅しか利用がないんですよと言われて、使いづらい状況になっています。それが私は決してベストだとは思いませんし、民間の力、民間ならそうやって職員を確保できて延長保育も問題なく行える、利用が必要な保護者が利用を断られることなくしっかり使うことができるという現状にはなっているとは思えないので、ベストミックスの事例だとは思いません。

ありがとうございます。

以上です。

○参加者 すみません。延長保育に事実誤認があると思うんですけど。

○三浦保育課長 ちょっとお待ちください。

○参加者 今、課長のほうから延長保育は民間が先にやっていたという発言があったので、その頃は保育課長ではなかったのご存じないだろうと思ひまして、記録としてきちんと残したいと思って発言させていただきます。

延長保育、私立でその頃はまだ社会福祉法人しかなかったですけども、1園か2園かはやっていたかもしれません。そこ私もはっきり覚えていないんですけども。公立保育園は、やるなら5園そろって一斉にやるというのが市の姿勢だったんですけども、その頃さくら保育園ですね、やっぱり都心から来ると一番遠い、武蔵小金井で降りても、そこから時間がかかるので、同じ5時に例えば千代田区のほうで仕事が終わったとしても、けやきなら間に合うけど、さくらは間に合わない。そういう実態を話しまして、陳情を出させていただいて、さくら保育園だけ先行して延長保育が始まりました。その後、公立5園に波及していています。

ですから、私立が先にやっていたという今の課長の発言だと、まるで私立がみんなやっていて公立がやっていなくてというふうにとられてしまうといけないので、そのところはちょっと口挟ませていただきました。すみません。よろしく願ひします。

○平岡保育政策担当課長 すみません。ちょっと私の説明の仕方が悪かったようで、誤解を招いたように申し訳ありません。今ご指摘いただいたとおりにいうか、そういう趣旨で申し上げたわけではなくて、その前にご質問の方が意見で言われたとおりに、終了時間が長いというようなところをもって言わせていただいたところです。

ただ、それについては、このような課題がありますよというご指摘は、今受けたのは理解しているところでございますけれども、公立保育園は今7時までということをやっていると思いますが、7時よりは長くやっていたら民間園もありますので、それを例に挙げさせていただいたというふうに言えば、より具体的になるかもしれませんけれども。それについては、先ほどのような実態としてはいろいろなことがあるというふうにご批判をいただいたというところかなと思っております。

ですので、すみません。何度も繰り返して恐縮なんですけれども、民間が先に延長保育を始めたというふうにしたつもりはなかったんですが、ちょっと前の言葉のつながりから、そのように取られるような発言だったなと今自分も思い返しておりますので、せっかく言っていたきましたので、ここで改めてそれについては訂正をさせていただきたいと思います。

○三浦保育課長 後ろの男性の方がいいですか。

○参加者 手が挙がっていたのに、すみません。2巡目になっちゃいますけれども。2順目というか何回か質問しているんですが。

ただ、ちょっとすみません、まだ。いつもこれで時間的に切れちゃってというところで終わってしまっていたところがあったんで、ちょっと今日、もしこのメンバーでできる範囲で確認なり、対話ができる場所は対話をさせていただきたいなと思って、僕もちょっとあんまり何度も何度もいうところはあるんですけど、やらせていただきます。

やっぱり対話の意味、今、皆さんが話ししても、対話というのはどういう対話なのかというときに、前提とか、条件付の対話なのか、それともきちんと市民が求めているものに対する対話なのかと。ちょっとあまり姿勢的なところを言いたくはないんですけど、最初から廃園ありきとか、5園の維持ができないということが前提ですというような話からやられてしまうと、これはもう正直対話ではなくなってしまうというのは、ご理解いただけるんじゃないかと思うんですね。

それは一方的に言われるような話なのか、いや、そうではなくて、きちんとそういったことを含めて、持ち帰って検討する、ないしはそういったことができるような形にす

るべきじゃないのかというところをお願いというか、本来でもそれが説明会の意味だと思うんですけども、ちょっとまずそのところから話が進まない、もうこれやっばり、やっても意味がないというか。

そもそも、僕が運協をやっていたり、委員長をやっていたり、ないしはいろんな審議会の副委員長とかですね、この建て替えの前身のやつもやっていたりとか、保育園検討協議会でも副委員長やっていたりとか、そういうときというのは、必ず委員会をスタートのときに前提というのをお聞きしています。どういうやり方でやるかというのを聞いた上で、それで、そういった前提というのは置かないと。そういったものは自由に議論していただいて構わないというところを確認した上でやった結果として、両論併記とか、両論併記じゃない、失礼しました。時間切れとかですね、ないしは、今までであれば少なくとも廃園だとか、総合的見直しを是とするような結論って1個も出ていないんですよ。にもかかわらず、協議とか検討をしてきましたという結論というか、そこだけ捉まえられると非常に困惑をします。

ですので、今まで逆に結論が出ていないというか、出てこなかったというのが、それに対してきちんと市のほうからしっかりした回答なり、時間をかけた協議がされてこなかったからこうなってしまったのであって、それをずっと我々、運協の中でも、ないしはこういった場でも言ってきているのにもかかわらず、やってきたから、もうこれで結論なんですというような言い方というのは非常に困惑をしています。

その上で、先ほどから申し上げています財政が理由ということではなくてと、言い方があれですね、財政も理由の一つかもしれませんが、財政面だけではないという話がある中で、財政面だけではないというところに関して、今、建て替えの話にしろ、人口の話にしろ、人材確保の話にしろ、一つ一つ丁寧に協議をさせてもらえない。何しろ、それ全部きちんとこちらとしては意見なり、ご質問なりをしています。ないしは、財政効果に関してもしっかりと情報公開請求して、こちらのほうでいろいろホームページにアップしてとかというような作業とかというのはしたくないので、ちゃんと市のほうからこういう場で資料をつけて、効果の中身というのをしっかりと出していただけないでしょうか。それもお願いをずっとしてきているんですけど、具体的な中身というのは出てきていないというふうに理解をしています。

ですので、本当に繰り返しになりますけど、小金井の保育の中身に関しても、どうしても抽象的な話で、できますとか、ないしは跡地に関してもちゃんと子どものために利

用しますとか、どうしてもやっぱり抽象的な話で終わってしまっていますので、もちろん具体的なものを出せないというのであれば、出せるタイミングでちゃんとしっかりと、このもの、廃園をしたとしてもちゃんと問題はなく、今の保育というのは維持できる。ないしは、より市民のための向上になるんだという確約があってこそその説明じゃないかなとかと思いますので。ぜひですね、一つ一つしっかりと中身のある議論を具体的にさせていただけたらなと。

そのためには、まずは対話として、今、繰り返しになっていますね。公共施設に関して、じゃあ耐震化工事じゃないですけども、大規模改修ですね、そういったものに関しては検討していないではなくて、ちゃんと検討していただいて、その上でやっぱり駄目なんだと、本当に土地を別に取らなければならないのか。もちろん、あれですよ、土地があって、そこでやるやらないって、やり方の一つだと思いますけど、そうじゃないやり方というのも過去にやってきたという事実も含めて、じゃあそういった検討が本当にできるのかできないのかという検討をした上で、今の最後の市長のご発言をいただければと思います、平岡さんのお話に関しては、今、現状をそういった計画というのは、今までもそんなことを考えていませんというお話でしたけども、それは個別計画にのせるのは、ほぼほぼ決まった段階でのせるべき、のせるような内容だって、予算もちゃんと個別計画に、たしか、ついた段階でやるというのは原則だと僕は理解をしていました。

もっとその前段の基本計画の段階では、前回申し上げましたけれども、きちんと、平成29年の公共施設等総合管理計画の中で保育園に関しては、既存の老朽化施設に関しては、設備等の不具合によるサービス低下や事故等の発生を防止するため、速やかな修繕を実施するとともに、大規模改修や建替えの検討と合わせ、各施設の将来の在り方に関する検討を行い、適切に対応しますと、これはまだ生きている計画ですよ。書いてあるんですよ。

だから、考えを持っていないという考え方自体というのが非常に困惑ですよ。これ前回も同じことを言ったにもかかわらず、また同じ答弁をされているんですよ。

だから、きちんと積み上げる議論させてもらえないかと。言った言わないとかじゃなくて。お金に関しても、公立のものに関してはなくなりますとか、ありませんとかではなくて、民間に関しては継続されます、今後要望しますではなくて、じゃあ公立についても要望して出てくるかどうか分かりませんが、そういう姿勢を持つか持たないかの話だと思うんですよ。

そういうところに関しては、ちょっと都合のいいように解釈と言ったら失礼かもしれないんですけど、でもやっぱりきちんと考えた、ここまで考えたんだけど、でもやっぱり無理だったと言うには、まだまだ市民の声とか、いろんな意見というのを取り入れていないんじゃないですかね。ぜひちょっとそういったところを検討するためにも、きちんとした対話ができる場というのをつくってもらえないか。

○西岡市長 答弁漏れがありましたらご指摘ください。

まず今回の説明会の意義や目的、対話等というところでは、私、まだ一言もですね、もちろんこの説明会の渦中にありますから、いつ、こうさせていただきますということは、もう一言も言っていません。今は総合的に見直しの方針案を説明している段階でありまして、これまでの説明会で出たご意見を踏まえて、この後、私が総合的に判断させていただきますという言い方しかしておりません。

ですから、何を、どのような形で採用したり、改善したり、今からこの方針をどのようにするかということについては、しっかり判断させていただきたいと、このように考えております。

なお、いただいたご意見は全く無意味だというようなお話もありましたけれども、私は決してそうは思っておりません。実に様々なご意見をいただいておりますから、そういった、またご提案もいただいておりますので、そういった声は私としてはしっかり把握させていただいているつもりでございます。

○平岡保育政策担当課長 今、施設計画のところのマネジメントのほうでしたっけ、お話をいただいたところがあります。基本的な方針のところを全部読んでいただいたのかなと思っておりますが、小見出しがありまして、「計画的な施設更新」のところについてはですね、「今後は老朽化した施設に対する大規模改修や建替えの検討を行う必要が高まるため、民間委託や民間移譲を中心に、各施設の将来の在り方についての検討を進めます。検討に際しては、将来の人口動向による施設への需要の見通し、施設の老朽化状況及び民間事業者の運営状況等を踏まえるものとします。」で終わっています。

次に、「安心・安全の確保」という小見出しの後に「既存の老朽化した施設については、設備等の不具合によるサービス低下や事故の発生を防止するため、速やかな修繕を実施するとともに、大規模改修や建替えの検討と合わせ、各施設の将来の在り方に関する検証を行い、適切に対処します。」ということで、安心・安全の確保のところでは述べておりますが、その前の計画的な施設の更新、これ基本的には建て替えのことを指し

ていると思いますが、これについては民営化を中心とした検討というような形に書かせていただいているかなと思っておりますので、取り方は様々かもしれませんが、大規模改修、建て替え等、同様な観点でというような考え方で私のほうではちょっと理解しておりませんので、そのようにご答弁をさせていただきます。

○参加者　　すみません、テクニカルな文言の解釈ですとか、行政的な文書の読み方とかですね、ここでそういうことを議論したいわけではもちろんないんですけどね、ただ通常、安全・安心のために大規模修繕も含めて、あるいは建て替えも含めてと書いてあれば、それぞれの手前のところで民営化と書いてあったとしても、民営化と大規模修繕、建て替えて、また別の話ですから。

民営化するというふうに考えていたって、建て替えとか大規模修繕してからやるケースもあるし、やらないケースもあるので、全然また違う話を持ち出して、またそれを違った答弁をされるというところが非常にちょっと。普通の市民だったら、これ以上言えないですよ。ここまで言われたら。僕もあまりにも、普通の市民じゃないからね。何でこんなことまでいちいち突っ込まなきゃいけないのかというのが正直、何か市民として情けないですよ。正直、こんなこと言いたくないです。こんな説明会聞きたくないと思いません、お互い。

そんな文言の一言一言の解釈を、何でこんなくだらないことしなきゃいけないんですか。頼みますよ。こっちが何を言いたいのかって。そんなことを言いたいんじゃないくて、そういう考え方を持っていないとか、それはそういうことをずっとやるつもりないとか、そういう答弁の仕方、答弁の姿勢に対して言っているんであって。

実際、今までそういうことを言っていなかったんですよ、事実として。それ変わったからっていつて、いや変わったところをきちんと検証もせず、ずっとやってきたんですよと、変わってませんと。それじゃやっぱり、対話にならないじゃないですか。

すみません、あまりこれ。何しろ建設的な対話がしたい、議論がしたい。そのためにはお互いに、別にこちらもね、一方的に言うとかそういうんじゃないくて、認めるところは認めた上でちゃんとした形で、メンバーで、議論できないんですか。資料ちゃんと出してあって、知恵出し合って。お願いしますよ。結構そこでいっぱい議論することあると思うんですよ。それを、きちんとやった上でお願いします。

○三浦保育課長　1巡目の方、ちょっといいですか、先。

○参加者　　はい。

○三浦保育課長　じゃあ、すみません。

○参加者　今まさに意見があったことで、運協のときから言っていたところで、結局中身がない案を示されて理解してくださいと言われても、理解できないんです。なので、そもそもまず説明会をする時期じゃなくて、中身をちゃんと議論して、それで十分だったところで、じゃあ説明会ですと言われてれば、多分、全然、知識がないと言っちゃうとあれですけど、普通の保護者の方そんなに知識ないですよ、過去の経緯とか。それを知らずしていきなり説明会されても、何質問していいかわからないんです。

さらに言うと、中身がないから、ますます何質問していいかわからないわけですよ。で、運協でちゃんとこういうことを議論しましょうよってずっと言ってきて、その結果、中身がないまま廃園ですとやっても、誰が理解するのかという話です。だから陳情されたんですよ、くりのみから。

今、この説明会って廃園準備行為ですって何か前回の市民説明会でおっしゃっていて、これ陳情の意思に反していますよね。それはいいんですか。市民の声なんて聞きません。議会の議決も気にしません。市長が独断で全部判断します。独裁政治ですよ。大丈夫ですかって私は思いますよ。

であれば、その陳情に対してどういうふうに対応していくかということをもっと伺いたいですし、この説明会についても意見伺って、総合的に判断しますとおっしゃいますけども、判断するんじゃなくて、まず回答をいただきたいわけですよ、少なくとも。本当は対話を求めています。協議会を設置して、ちゃんと中身を議論して、ああ問題ないですね、仕方ない廃園ですねという結論、もちろんあると思うんですよ。そこの対話をする前に、まず回答をもらいたいですね。回答と、あといろいろ、こういう資料くださいって要望があったと思うんですよ。その資料も頂きたいです。せめて、その回答と資料を頂いて、この説明会はこの回答がありました、こういう資料がありました。そこをもって、またじゃあ議論しましょうか、しませんかというところが、またあるかと思うんですけど。それすらも何か行われなくて、市長が総合的に判断します、廃園です、もう説明会もしません。これ誰も理解しないですよ。納得しないですよ。なので、そこは最低限だとは思いますが。

ということで、質問としては陳情に対して、どういうふうに対応していくつもりがあるのか。この説明会の次のステップは何ですかというのを、ちゃんとここで決めてくださいということが私の一つ目の意見です。

もう1点が、老朽化の話をずっとされていますけども、結局リミットっていつなのかをちょっと教えてほしくてですね。すごく急いで、何か廃園を急がれているようなんですけども、来年、再来年で、もう駄目だという話であればまだ分かるんですけども、何か決してそういうわけではないわけですよ。耐震性はそんなに、すぐ何か問題があるわけではない。一部、老朽化している部分はあるので改修はあるかもしれないというのは分かるんですけども、ちゃんと議論をしないままに、いやもう何か子どもの安全があれだからみたいな話で、もう壊しますと言われても、それでは多分、誰も納得しないと思うんですよ。なので、そのリミットも教えていただきたいんですよ。

もしリミットが5年後というのであれば、十分に議論する時間があるんじゃないかと。少なくとも、その見直し案の報告書の中に、じゃあ民営化しましょうか、廃園にしましょうかとか、複合にしましょうか、統合にしましょうかとかって、何かぺら1枚でありましたけど、ああいうのはもう運協ですべて説明を求めていたことで、ほかの方法もありますよね、そういうのを議論しないんですかと言って、いやちょっと検討中ですみたいな話で、何で今になってそれが急に出てくるのかもよく分からないわけです。

もし、その老朽化のリミットがもうずっと先で、まだ大丈夫ですとなれば、ちゃんとそこを議論しましょうよという話だと思うんですよ。

さらに言うと、リミットがもうすぐそこに迫っているのが分かっていたとしたら、もっと前に言ってほしかったわけです。少なくとも私が運協をしていた4年前とか5年前の時期で分かっているんだとしたら、じゃあもうそのリミットに向けて、ちゃんと今、もうしょうがないから、民営化かもしれないし、廃園かもしれないし、ほかの方法かもしれないから、ちゃんとそこはやりましょうと、多分、覚悟してやっていたと思うんですよ。それを今になって、いやもう壊さないといつて廃園と言われても納得するわけじゃないじゃないですか。なんで、その老朽化のリミットをちゃんと示してほしい。時間があるんだとしたら、ちゃんとその協議をしてほしい。

4点目が、市長は新たな会議体を設置しないとおっしゃるんですけど、その理由は何なのかやっぱり分からなくて。先ほどもあったと思うんですけども、まず十分に時間をかけて議論してきたというようなことをおっしゃいましたが、やっぱり結論はないわけですよ。時間と量をこなせばそれでいいというわけではなくて、市としての役割と、公立の役割ではなくて市の役割だとおっしゃっていますが、じゃあ市の役割って何ですかというところも、少なくとも見直し案を見ると保育の質の維持・向上と、あと

量の確保だみたいなことだけは書かれてあって、具体的なことってないんですよね。すこやかはつくられましたけど、じゃあ実際にどうするかというと、あれ配布しますと、それで終わりですじゃ、ちょっと、えってなります。これはちょっとよく分からないんです。

その議論もされていないのに協議体なんかしませんと、もう十分議論をされましたというのが、やっぱり納得できないわけで。その、じゃあ設置しない理由があるとしたら、それは何なのかを教えてください。

質問は以上になります。

○西岡市長 独裁政治というふうにご指摘をいただいたと思いますが、そんなつもりはございません。今は方針案について説明をしている渦中にございますということで、冒頭もご挨拶の中でご説明させていただきました。独裁政治ということであれば、もうそもそも人と会うこともしないでしょうし、誰とも会わずに一人だけで勝手に決めるというのが独裁政治と理解しています。

○参加者 そんなことはないでしょう。

○西岡市長 市内でいろんな議論を重ね、そして検討を行い、そして、この保育園の問題に関しては平成9年から実に様々な会議体で、長い時間をかけていろいろな議論が行われてきました。そういう状況の中で……。

○参加者そこは違うと思う。

○西岡市長 議論が行われてきたのは事実ですよ。いろんな会議体で議論が行われてきたのは事実ですから。

○参加者 議事録あるの。

○参加者 じゃあ全部出してくださいよ。公務員なんだから。

○西岡市長 議事録も全部出ているじゃないですか。いろんな、様々な。

○参加者 いや、だから議論はしてきたけど。

○西岡市長 議論をしてきたのは事実でありまして、そして、いろいろな手法についても検討してまいりましたが……。

○参加者 してない。

○参加者 されていないです。

○参加者 廃園について議論していないじゃないか。

○西岡市長 この状況の中で市長といたしましては、私といたしましては、この方針案の中では段

階的縮小から廃園。そして、その理由としては、施設の老朽化、人材確保、費用負担、財形的な課題、そして、今後の人口の在り方や保育園の定員・総定員数の適正化、あるいは、今、社会から求められている保育の質の向上、さらなる予算と人材が必要、こういったことを含めて、私は、今回、段階的縮小から廃園ということで、そして、公立保育園は2園を、これから存続させていくと、そういうことを申し上げ、そして、12ページにあるような、保育サービスの充実、対応についてしっかりと考えていきたいと。

さらに財政効果としても10年間で27億1,000万円を計上してございますが、こちらにつきましては、これからも必要になる子育て・子育て・教育環境の向上にしっかり充当していきたい。これは市財政全体のことを考えたことによる判断です。

そのことを、ずっとこの間、私は申し上げてまいりましたし、市政全体に責任を持つ立場から、この今回の判断をさせていただいたということでもあります。

したがって、今後、私は、この説明会を踏まえて、いろいろなご意見をいただいていますから、小金井市公立保育園の経営主体として判断をさせていただくこととなりますということを申し上げてまいりました。

それから、老朽化のタイムリミットはいつなのかということなので、これは何年何月何日ですと答えるのは非常に難しいですね。建物の場合は一般的な見解があらうかと思えますし、施設白書や個別施設をつくる中でいろいろな検証を各部各課が行っております。

ただ、少なくともはっきり申し上げられるのは、くりのみとさくら保育園に関しては令和10年3月31日まで運営をすることになっていますので、もちろん大切な命を、この案ではですよ、案では、段階的縮小の下では、令和10年3月31日まで、これは運営をしていくということの方針案ですから、それまでは責任を持って施設については必要な対応は取っていくと。保育園を経営する以上は、建物が安心・安全であるということは、もう言うまでもありませんので。その対応は、しっかり取らせていただくということは、このことをはっきり申し上げさせていただきたいと存じます。

それから、経営主体として判断をするということでございますので、新たな会議体を設置するということは現時点では考えておりませんということは申し上げさせていただいたところです。

その理由はということではありますが、経営主体である私たち小金井市が、これまでのいろいろな検討、協議、そして、今、置かれている社会情勢、そして、今の公立保育園

の抱えている多くの課題などを踏まえた結果、市役所の、小金井市という経営主体として、これを判断する必要があるというふうに私は考えておりますので、そのようにご答弁をさせていただきます。

なお、小金井市すこやか保育ビジョンに関しましては、こちらの活用につきましては、議会でもいろいろご指摘をいただいております、私自身も、コロナ禍ということもあったんですが、各園に1冊だけ配布するなんていう、こんなやり方では到底かなうものではないということは十分分かっております。ただ、まだ第一歩ということでご理解をいただきたいと思っております。

そして、これから研修などについても考えておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の関係もありまして、予定どおりいっていないものもありますが、動画の編集であったり、民間保育園、これは多様な保育園になりますが、小金井市で保育園を運営している関係者の方々と共有できるように、さらに、この取組を進めていくと。各園に1冊配布して終了なんていう考えで終わらせているわけではなくて、この計画の48ページか49ページだったと思っておりますが、保育の質の向上に向けた実践する項目として大きく6項目を掲げさせていただいておりますので、この6項目の実践に向けて私たちは努力する立場となります。

この小金井市すこやか保育ビジョンは、ご指摘のように、これは小金井市が推進し実践する、その役割を担っていることは、これはご指摘のように間違いがありませんので、その役割をしっかりと果たしていく。またそのためにも、公立保育園でいろいろな貴重な経験を積み重ねていただいた保育士の力もお借りしまして、保育課にチームを編成させていただいて、市全体の保育の質の向上に貢献する、そういう仕事も、ぜひさせていただきたいということ、この方針案の中に明記をさせていただいております。

○平岡保育政策担当課長 陳情と準備行為の件でお話がありましたので、そちらについて少しお答えをさせていただきます。

部局のほうとして理解をしているところは、陳情のタイトルではなくて、陳情の要旨として書かれてありました、「利用者等と十分な協議・理解を得ないまま、くりのみ保育園、さくら保育園の0歳児募集をしないなど、利用者具体的な影響のある廃園に向けた準備行為を実施することは早急にやめてください。」こちらに対して対応していくものというふうに考えております。

準備行為というものが、どこからどこまでに当たるのかというのは、使うとまた怒ら

れてしまうんですけど、なかなか難しいと思っておりますが、説明会以前に私たちのほうで例えば検討をしていたり、資料を作ったり、そういう部分も広い意味では準備行為に相当するのではないかと私は考えております。そうしますと、正直何もできないという状況になりますので、こちらとしてはそういう意味で、この説明会も準備行為だと言わせていただいたので。

ある説明会の中では、参加したということで廃園に加担したくないというようなご発言もあったと思うんですけど、そういう意図では全くなくてですね、最終的にそうなった場合に、準備をしていた行為の一つにこれも当たるだろうというふうに思っておりますので、そういう考え方です。

ただ、繰り返しですけど、部局としては件名ではなくて陳情趣旨の部分について対応していくものというふうに考えておりますので、改めてご答弁をさせていただきました。

○参加者

今の陳情についてのお話は、少なくとも説明会を、準備行為じゃないというのは無理があるかなと。当然、案をどこかで協議する必要があるとは私も思っています。それ案もいきなりないまま、決定ですと説明されても、それはますます理解できないので、案について説明をいただく、検討していただいて説明をしていただくのはいいんですけど、それを説明会の形でやる必要はないですよ。運営協議会だってありますし、子ども・子育て会議だって今ありますし、ここでまず議論をしてからでも遅くないですし、●●●さんご提案のようにそういうちゃんと、これから立ち上げてやるというのが真っ当なやり方だと私は思います。

説明会って、普通はあまり対話とは言わない気がするんです。協議、理解を得てからやってくださいというときに、じゃあどこまでが準備行為か分からないんだったら、協議、理解を得ながら準備行為しますというのはまだ分かるんですよ、そういう協議やって。廃園で、こういうふうに思っているんですよという案について、保護者と一緒に協議するんだったらまだ分かるんですけど、何かもう市のほうで、もう全部決めて、スケジュールまで入っているわけですね、これ。案と言いながら。それは、もう一つの案だからしょうがないというんならあれですけど、でも、来年度ですと言われて、案ですと言われると、いやもう決定ですよと普通、思います。私も見たとき思いました。それはちょっと違うんじゃないかなと思うわけで。

いきなり説明会ではなくて、やっぱり案についてちょっとほかのところで協議してから十分理解を得られた上で、もう廃園になります。じゃあ、ちょっと説明会しますとい

うのなら何かちょっと分かるんですけど。

何かそれはちょっと違うんじゃないかなというふうに。これはまた文言をどう取るかみたいな話になってしまうので水かけ論になるんですけど、少なくとも私はそう思っていますし。

あと、過去の保護者の説明会のほうも様子も聞くと、やっぱり何か中身が不十分なので理解できないと。正直、廃園の賛否みたいなのを保護者に問うことはしなくても、せめて中身はちゃんと説明してくださいというような意見も多分出ていると思うんですよね。なので、求めているのはやっぱりちゃんと協議、理解を得ることを求めている、今の不安は、この説明会で十分協議、理解を得ましたね。じゃあ廃園しますよというのは止めてくださいというのが多分意図だと思うんですよね。

準備行為がどこまでかとかはどうでもよくて、一番大事なのはそこなんですよ。だから、そこはちゃんと担保してくださいというのが多分、陳情の意図だと思うので、そこはしっかりやっていただきたい。

あと、市の役割で、保育課の質の維持・向上というところも、すこやかを活用していくのが本当に大事なところで、じゃあそれどうやるんですかというところをやっぱり、まだ見えていないわけで。そこを協議しないまま、ああ、じゃあ廃園にしますと。いやそこは公立園とは切り分けで違うんですと言われても、やっぱり市の役割が何かあったときに公立園という場を使ってやらなきゃいけない施策があったときに、2園しかありません、ちょっと足りませんねとなったら困るんじゃないですかというのが普通に考えることなわけです。

なので、そこもちゃんと協議して、市の役割を果たすためには、まあ2園あれば大丈夫ですよとなれば、じゃあ、もう減らしてしようがないかなというふうに理解されると思うんですね。そこがないまま、何か保育の質の維持・向上します、サービス拡充します、だからちょっと。でもまあ2園で十分だと思いますよと言われても、やっぱり何か具体的な話がないから分からないわけですよね。そこはやっぱり理解できませんというところで、ちゃんとそこはやってください。

あとちょっと1個抜けていたのは、この次のステップって結局どうするんですかという、この説明会のステップというのは。やっぱりそこは持ち帰って判断しますんですかね。せめて回答とか、資料の要求に応じますというところはないということでもよろしいんですか。

○平岡保育政策担当課長 資料の件のお話からいきますと、前回、市民説明会で各園の財務状況などというお話をいただいたので、東京都のほうで公表できる範囲は公表している部分がありますので、そちらのリンクを貼らせていただいたのはあります。確かに様々な資料のご提示をいただいている部分もありますが、こちらについても不足があるものであれば、今後ホームページなどで出させていたいただきたいとは考えております。

あとは、言葉云々のところは、またご迷惑をおかけしてしまうので、もうそれ以上お伝えすることは止めさせていただきたいとは思っております。

私どもとして民営化のときにもお話をさせていただいたことがあったと思うんですが、サービスの拡充という言葉がいいかどうかは別として、拡充していくときに経験ある人材がさらに必要であるという考え方を持っていました。その一方で、市の職員を単純に増やしていくことは、もう難しいということもありましたので、私たちとしては保育園という場所と人と両方取れば、そうしたかったところはありますけれども、人をこれ以上、増やすのは難しい状況が公務員としてありましたので、経験ある職員を全体的な保育の充実のほうに回させていただくために公立保育園の職員を充てさせていただくという考え方がありますというのは、民営化のときにお話をさせていただきました。それが全てではないんですけども、そういう考え方もあってということだけは、この場でちょっとお伝えをさせていただきます。

○西岡市長 すこやか保育ビジョンの、先ほどキーワードで終わってしまったのですが、48、49ページ、時間の関係で詳細な説明は省きますが、「保育の質の維持・向上に向けて」というところで、「保育の質の維持・向上に当たっては、各現場で目の前の実際の子どもの姿をもとに、保育実践をより良いものにしていく取組が日常的・継続的に行われることが重要です。小金井市は、子どもの最善の利益を保障するため、保育現場の保育者一人ひとりの自らの資質や専門性の向上を図る取組を支援するとともに、市として次の取組を推進することで、地域全体の保育の質の維持・向上を図ります。」としております。

1点目の保育の質のガイドラインの活用です。2点目が保育者の研修、3点目が各種評価の実施、4点目が保育士の確保、5点目が保育訓練におけるネットワークづくり、6点目が幼保小の連携と明記をさせていただいております。

今回の新たな保育業務の総合的な見直し方針案とも非常にリンクをするところがあります。例えば、この中にもあるんですけども、ネットワークというところでは、「巡

回保育支援チーム」を含めた保育者全体の」と書かせていただいておりますが、さらなる体制整備を検討し、推進しますというふうに書いてあります。

市長といたしましては、ほかのページでも大事なたくさんあるんですが、特にこのページに明記されていることを適切に実践していくことが大切だと思っておりますし、このことを実現するためにも今回の新たな、今、正規職員を計画もなく、なかなか増やしていくということはもう今できない状況ですから、新たな保育業務の総合的な見直し方針案にも書かれているように、段階的縮小による廃園によって生み出される貴重な人材、多くの経験をされた保育士の方々には、全員ではありません、もちろんその職員は小金井保育園やけやき保育園でも引き続き保育士として頑張っている方もいらっしゃいますが、巡回保育支援チームというものを新たに設置をさせていただいて、今までになかったような取組、新しい取組を実行するチームをしっかりとつくらせていただきたい、このように考えているところです。

○参加者

すみません、後ろの方がおっしゃった、私がかぶる部分が、ちょっと言い回しが違ったりするだけという点もあるかもしれないんですけども、4点ほど説明をお願いしたいところがあります。

1個目は、先ほど市長が、いろいろな審議会で検討されてきてという話をされたんですけども、その検討結果についての認識が、市民としては違っているので、それは一言申し上げたいと思います。

公立保育園の運営データにつきましては、最後の児童福祉審議会ですね、子育て会議になる前の最後の児童福祉審議会のところで、公立保育園については運営形態のことは諮問されていましたが、その中で公立保育園は今のままの形で、ごめんなさいね、頭の中にあるので言っているので文言、若干違うかと思うんですけども、今の形のまま残して3年ほどの経過を見て、結論を出すべきだというのが最後の児童福祉審議会の結論だったと私たちは思っています。

それで、その3年後の検討というのがされていない、内部でされたのかもしれないんですけども、市民としては知らされていない。なので、今のままの形でという、存続させるべきだというのが一番最新の運営形態についての答えだったと認識しています。

その後の保育検討協議会とかですとかで、両論併記になったというのは、先ほどから言われているとおりで、きっちりした答えは出ていないと思いますし、検討協議会のときには私もずっと傍聴させていただきましたけれども、様々な運営主体による比較検討

みたいところが、本当にそれをするんだと思って私は期待して毎回傍聴に行っていましたけれども、そういうことはされていませんでした。ですので、そのところを結論として持ってくるのはちょっと違うのではないかという市民感情として申し上げておきたいと思います。

2点目ですけれども、先ほどから後ろの方おっしゃっていたように、くりのみの歴代会長会のほうから出された陳情についてですけれども、保護者などの理解ということ、ごめんなさいね、課長も答弁一度されているんですけども、理解されないままの廃園準備行為はということでしたけれども、現在どの程度の理解が得られていると認識されていますか。

それで、どこまでやれば保護者や市民の理解が得られたと考えてらっしゃるでしょうか。今日の説明会の様子でもあまり理解は得られていないなと私は思っているんですけども、これはでも市によっては、小金井はそんなことないと思いますけれども、自治体によっては説明会しましたので理解を得られました、やりますという形で進んでいってしまうところが多いので、非常にここを危惧していますので、どの程度までということを教えていただきたいと思います。

それから、今日の資料には入っていないんですけども、その段階的縮小、私たちは廃園と思いますけれども、これを決めたときの手法別比較衡量表ですね、あれ1枚ぺらっと出されて、それで廃園が一番いいですよというふうに結論しましたというふうに言われているんですけども、これの中身、その比較をどういうふうにされてきたのか。子どもに影響がない廃園は◎とか、そういう表だったと思いますけれども、例えば、公立保育園運営協議会のほうで、その内容を細かく検討して、そうだねということになったのか、議会のほうでどの程度の説明をされたのか、一市民は分かりませんが、私はそのところも詳しい説明がほしいと思います。ぜひお願いします。

それから、四つ目ですけれども、公私の役割には差がないんだよということを議会でも答弁されていますし、私もじゃないかな、前の市民説明会するときにもその話が出ていたと思うんですけども、公私の役割に差がないから3園廃園しますとおっしゃいますけれども、それならなぜ、けやきと小金井残すんですか。公立保育園がなくてもいいというのであれば、5園全部なくせばいいんじゃないんですか。そうすると財政も大分助かるんじゃないかと思うんですけども、2園残す理由を教えてください。

以上です。

○西岡市長 保育業務の総合的な見直しに係る背景という、これまでの経緯というのは、見直し検討結果報告のあった11ページから22ページ以降に明記させていただいておりまして、ここに書いてあるとおりの、私は理解をさせていただいております。経過につきましてははですね。そのようにご答弁をさせていただきたいと思っております。

現在、説明会、そして、いろいろな、皆様方とこのような形で意見交換、ご質問にお答えするような形、こういった環境をつくらせていただいている、その渦中にありますので、どの程度という形で数値的に何かを申し上げることは難しいと私は考えております。今、私としては、ご理解をいただけるように引き続き、どんな状況であっても保育園の問題のみならず、いろいろな施策を展開するに当たっては、常にご理解をいただけるように努力をしていくことが求められているというふうにご答弁させていただきたいと思っております。

また、段階的縮小から、それから、公立保育園の役割のところなどにつきましては、担当のほうからご答弁をさせていただきたいと思っておりますが、財政的な課題がメインであれば、もう5園全部そのままなくしてしまえばいいのではないかというご意見もいただきましたが、私はそのように……。

○参加者 いえ、違いますよ。公私の差がないのであればと言ったんです。

○西岡市長 公私の差がないのであれば、分かりました。公私の差がないのであれば、公立保育園を全部なくしてしまえばいいのではないかとありますが、現に小金井保育園とけやき保育園は、けやき保育園はまだ築年数は7年でございます。

○参加者 古くなったらやめるんだ。

○西岡市長 まだ新しいんですよ。小金井保育園、それからけやき保育園につきましても、施設はございますし、それから、今回、公立保育園2園という意味では、施設の関係、それから運営の関係、それから現在保育士も仕事をしております。現在もそこで業務を行っております。

そして、地域的に見ましても、小金井とけやきという形では駅周辺ということで、そのエリアについても補っていくことが可能と考えております。

また、12ページにありますように公立保育園の中における特別なご支援が必要なお子様を対応できることとえば、3歳児という年齢の撤廃や、その受け入れる人数の枠の拡大など、そういったことも含めておりますので、私は公私の役割のところの観点で、じゃあ全部なくせばいいのではないかとという形で帰結するということにはならないと思

ています。

なので、私は、公立保育園は、2園は存続ということでお答えしていますが、このことが途中で変わるということは私は考えておりません。それは、もうはっきり申し上げています。そのために、その職員も配置をしていくわけですし、そして、二つとも複合施設になっているんですね、結果としては、二つとも複合施設になっていますので、施設的な改良が必要な状況になれば、それは市として施設的な対応もしなければいけないというふうに私としては判断いたしております。

以上です。

○平岡保育政策担当課長 ちょっと順番が前後して申し訳ないんですけど、役割のところなんですけれども、こちらとして最終的にお伝えしたかったところなんですけど、制度の中で公立だから、民間だからということで役割が何か明記されているものが、制度の中ではないという確認をしたという意図です。これは策定委員の方々からも実はご指摘いただいていたので、こちらの当初の議会の答弁などの説明のちょっと言葉が足りなかったところはあったと思っていますので、それを確認したということです。

その上で、自治体によっては役割を定めているところはあるのは存じ上げていますので、役割のありなし、根本的にありなしという話ではなくて、制度として公立保育園というのはこういう役割があります、公立でない保育園はこういう役割がありますというふうに制度上、分けられているものではないですと。

保育所の役割というのは、私が言うのも何なんですけども、保育指針の中には書かれています。その中に、公立保育園の役割、公立でない保育園の役割に分けて書かれているわけではありませぬので、制度上ないですよという確認を、その会議ではしたということをお伝えしたかったというところですね。それをベースにして役割を定める自治体もあれば、申し訳ありませんが、定めていない自治体もあるのも事実であります。

小金井市の場合においては、現時点ではそれも含めて、市の事務方の部分も含めて、一緒になって役割を果たしていくというところからやっていきたいので、分けるような形にはしたくないということで申し上げているというのが、その役割のお話です。

ですので、公立保育園、全部なくせばいいじゃないかというような、ちょっと多分思っただけじゃないようなお話だったと思うんですけど。

○参加者 残すんですかと言ったんです。

○平岡保育政策担当課長 ごめんなさい。ということなんであれば、何で2園残すんですかというお話

だったと思うんですけども、私たちとしては、確かに過去からの議論の中で、公立保育園自体に求められてきているサービス拡充というのもあったと認識しています。それについて、少しでも応えていくために私たちとしては人を、寄せるという言い方がいいかどうか分かりませんが、させていたでいて、少しでも拡充を図っていくようなやり方をしたいというお話が、この中に書かせていただいているものです。

ですので、なくすつもりであれば、園の機能強化をしてどうするんだというふうに私は個人的に思いますし、そのためにも、その2園に人を集約して充実できることをやっていくというふうに思っています。

実は、それ以外にも、長くなって申し訳ないんですけど、挙げられている課題はあったと思います。例えば、休日保育、公立がやるかどうか別ですけども、休日保育。それから、延長保育のさらなる延長など、まだまだ宿題は残っていたかと思っています。これについては、公民がどちらがやるか、どうするかという話は別にして、まだ残っている課題として、なので、すこやかにも残っているというふうに思っています。

ですので、それを現実問題として、休日保育を公立がやっている自治体もあります。例ですね、ただの。それがいいかどうかは分かりません。ですので、そういう過渡期にあるというふうに思っておりますので、わかたけ保育園についてどうするかというお話のときに、そこで、その部分も含めて内部でも検討していかなければいけないというふうに思っておりますが、だとしても、残る2園については既に機能の強化を行って充実していくんだというのを出させていただいておりますので、そういう考え方であるということだけはちょっとお話をさせていただきます。

それから、表の内容ですね。表については、内部でまとめさせていただいたものについて理事者以下、確認をしていただいで、一つの参考資料として出させていただいたものであります。ですので、これが決定打になったというふうに担当として考えているものではありません。検討の一つの材料というふうに考えておりました。

ですので、点数づけ、様々なご意見、説明会の中でもいただいでおります。いろんな視点はあると思っておりますが、やはり検討する材料としてなければ先に進んでいくことは、検討が進んでいくことはありませんので、そのような形で出させていただいでおります。ですので、そのような形でご覧をいただければというふうに思います。

以上です。

○三浦保育課長 ちょっと待ってください。

ごめんなさい。時間が過ぎたんですけど、何か発言を予定されている方、何人ぐらいいらっしゃいますか。

○参加者 1回目。

○三浦保育課長 1回目、分かりました。

ごめんなさい、女性の方で。

○参加者 すみません、1回目です。

先ほど、市長のあれで公立保育園は、やっぱり必要だというのは、たまたま小金井保育園とけやき保育園が5園の中で新しいから、武蔵小金井と東小金井にたまたまあったんですよね。これが古いのが、例えば、くりのみとけやきだったら、どうしたんでしょうね。そういうのって本当に行き当たりばったりの回答で、本当に腹が立つんですけども、やっぱりそれは違うんじゃないかというふうに思うんですね。やっぱり公立保育園の果たしてきた役割というのは、絶対あったと思うし、その中で、私なんかも保育してきましたので、やっぱりそういう軽いことを言ってもらって本当に腹が立つんですけど。

それで、やはり小金井保育園だって、けやきは新しいんですけども、かなり年数たちましたよね。そうすると、廃園するつもりがないということであれば、それなりに今からまた計画を立てておかないと、やっぱり建てる場所がありませんでした、行くところがないですから、やっぱり廃園にしますという案になるのかなという、今考えるとね、今からすごい心配になるんですけども、そのことが一つと。

あとは、私はやっぱり保育士なので、まちを歩いていても、いろんなところでもう本当に散歩しているのかとかって、やっぱり目につくんですよ。もう見たくなくても、やっぱり見えちゃうんですね。見たくない、聞きたくなくても会話が聞こえちゃうんですよ。やっぱり先ほど●●●さんが言ったみたいに、私もやっぱり歩いていて、2歳になったかならない子と一緒に散歩している保育士が、何とかちゃん、もうお隣の何とかちゃんとテンポ合わせて歩いてくれないとかって聞いたときに、こんな1歳か2歳の子にテンポなんていう言葉分かるわけないし、何でそんなところでテンポを合わせて歩かないといけないのって、よっぽど言ってあげようかなと思ったんですけど、ちょっとぐっところえてやめたんですけど。

やっぱり保育の質というのはすごく大事なことで、そういうところでの今後、市としてどういうふうに、ただいっぱい保育園できていますけども、その辺のことをどういうふうに思っているのか、ここでいくと何か余った人材を。

○参加者 余っていない。

○参加者 余っていないんですけど、保育士等の経験ある人材を集約して公立保育園及び市全体の保育サービスに拡充を行うと書いてあるんですけども、要するに、これ余った人をどういうふうにするんです。手伝いに行かせるということなんですか。それとも、監視させる役目をさせるということなのか。それが誰が行くのかも分かんないんですけども、偉そうにそんな、保育士ができるわけじゃないじゃないですか。誰にやらせようと思っているのか知らないんですけど、どういう形なのか分からないんですけど。来られるほうだっ嫌ですね、そんな公立の保育士が何しに来るんだと思うんだと思うんですけど。

その辺が具体的に全然見えないんですけども、どういう計画なのか、もし決まっていることがあれば教えていただきたいなというふうに思います。

以上です。

○平岡保育政策担当課長 最初、市長の発言に対してのお話もあったんですが、私のほうからお伝えをさせていただきます。

老朽化の観点でというお話をしているところを捉まえて市長のほうで発言をしているので、おっしゃっているとおり、どこでもよかったとか、古いからとかというような話だけでは、当然ないです。民営化のときにも内部で検討させていただきましたけども、確かに複合施設というものもありますが、きちんと一時保育が別のお部屋にあたりですとか、そういうようなことも私たちとして念頭になかったわけではないです。

ただ、今回、私たちとして一番着目したのが施設の築年数の部分があったもので、そういうようなお話をさせていただいたところはお伝えしたいと思います。

それから、いろいろとお話を聞かせていただいて、保育士の方にとっては、それはいろいろ我々以上に気になる部分、目につく部分があるのだろうと思いますけれども、そういったものについてはやはり、おっしゃっているとおり職員、経験ある全然別のところから、保育やっていた人がふっと行って、何か話をしてすぐ直るというものではないというふうに思っています。

ただ、どちらの立場でもない方であって、現場の経験のある方がすぐにではないんですけども、少しずつつなぎ役を、保育の内情が分かる方が連携をしていただくような立場に立ってもらいたいという職です。

それについて、今、誰にやってもらおうということは、申し訳ないんですけど、さすがに相手もありますので考えているところはありませぬけれども、それも、いきなり保

育士の人に100%結論に近いようなものを求めるようなことは、相手があることですからおかしな話になっていくと思いますので、今そういった部分のお話がきちんと、小金井市の場合はまだまだ不足しているというふうに思っているの、そういう保育の部分での連携というか、ネットワークというか、顔の見える関係というか、そういうような部分を保育士という方にも手伝ってもらいたいというのは私の率直な思いです。それは始めないと、いつまでたっても始まらないです。

今それを私たちは、民間保育園の園長先生方と私たちは話していますけれども、公立保育園のほうと民間園との交流の部分については、大分長く途絶えている状況に近いと思っています。そういうようなところも一緒にやっていってもらう職員がほしいと私たちは常々思っていて、それは今、実際に自分たちでやっている園の子どもたちに対して一番全力を注いでいただけるようなポストではなくて、違うポストにもいていただかないと、それはやはり機能しないのかなというふうに思っています。

なので、計画というお話もあると思うんですけど、ゴールはとても高いところにあると思って、そういうつないでいけるところをできるところから1園でも多くつないでいけるところをやっていくために保育士の方も、私たちの、いわゆるバックヤードのほうにほしいというのが事務職の率直な思いです。

なので、いきなり来て過度な負担を与えるとか、上から目線で指導してもらうとか、そういうようなことは全然考えているわけでもありませんし、うまくいくと思いません。

○参加者 いいんじゃない。そのとおり。

○平岡保育政策担当課長 そういうような立場でいったら、うまくいくと思いませんので。ですので、そこのところについてもごもごいつも言っているのは申し訳ないと思っているんですけども、少しずつでもやっていきたいというふうに思っていますので、そういうふうな、何ていうんですかね、ちゃんとした回答になっていないかもしれませんが、そういう思いでこのチームというのは考えさせていただいておりますので、そこはちょっとお話をさせていただきました。

○三浦保育課長 じゃあ、あとお二方でよろしいですか。

○参加者 こんにちは。すみません、今日初めて説明会に来ました。前回、2回、市民説明会あったと思うんですけど、私とても時間調整ができず、初めてなので、分かっていないことがいっぱいあると思うので、申し訳ありません。話についていけないかもしれません

けれども。

私、実は他県で保育士をやっております、それから、子育ては小金井でさせていただきました。2人ともくりのみ保育園でお世話になりました。上の子は3年で、下の子は6年間お世話になって、本当にベテランの先生に一人一人の個性を見ていただいて、それを潰さないというか、大事にしながら育てていただきましたし、それから、私自身も未熟な母親であるときにいろんな助言をしていただいて、それは本当にベテランの先生がいらっしやっただけで、こういうときはこうなのよってお話をさせていただいて救われた部分がたくさんあったと思います。だから、本当にくりのみ保育園がなくなることが悲しいし、あの環境もすばらしかったと思っています。

さっきからちょっと散歩の話が出ていましたけれども、私も保育士でしたから、すごく気になります。一番気になるのは、どうして毎日のように、こんなにたくさんの子が道を団体で歩いているんだと。それが一番気になります。怖いです。私も保育士で、園庭のあるところにいましたけれども、それでも、それ以外の目的でもっと広いところとか、もっと自然環境のあるところへ週1回は絶対行きたいと思って、クラスの子を連れていってました。だけど、本当に心臓に悪いです。まず今の子、歩いていないですから、ふだんから。道の歩き方を知らないですし、そういう子たちをこうやって歩くんだ。でも、どこから車が出てくるか分からないです。本当に怖いし、神経が休まりません。でも、今見ると、結局こんなに歩いている子、保育園の子が散歩しているということは、園庭がないからですよ。私は、それが一番よくないと思っています。

前に議会に出た資料をたまたま見せていただいたら、都の基準というのが多分あると思うんですよ。園庭についても、それから保育室についても。園庭についてはちゃんと基準があるはずなんですけども、それを満たせない場合は仕方がないから近くの公園でという話ですよ。でも、幾つもの園が栗山公園に行きますという資料をどこかで見ました。栗山公園じゃあ、何園も来たらどうするんですかって。本当に遊べるんですか。

何かそうすると、やっぱり先生たちはセーブするしかないですよ。危ないし、行ってもいろんな園とぶつかるんだから、じゃあ週1回にしましょうねという話になるかもしれない。ちょっとそこはどうなっているか私も分かりませんし、園によって方針がきっと違うだろうな。そういう外遊びを重視する園と、そうではない園も多分あると思うんですよけれども。

それで子どもにとっていいんだろうか。のびのび遊べる、安心して遊べることができ

ることによって、保育というか、まあ0歳から、0歳でもお散歩、乗っていきますけどね。ゼロから6歳の間に子どもの心と体の基礎ができる、すごく大事な時期だと思うんですね。これが公立、三つもしなくなったら、どんなに条件が悪くなるんだろう。それが私、本当に一番心配です。小金井の子たち、本当に健やかに育てるんだろうか。

私は、もう60代ですけど、私たちは昔は外で遊ぶことが安全だったのです。学校から帰って遊ぶのもそうだし、小さい子だってその中に混じって一緒に遊んでいたんです。それ怖くなかったんです。だけど、今の子、外で遊んでいないですよ。うちに帰ってからも遊ばないし、小学生もあまり外で遊んでいませんし、小さい子も遊んでいません。親が連れていかないといけないから。となると、やっぱり保育園、幼稚園もそうですけど、幼稚園はたしか園庭がないと駄目だなと思うんですけど。何で保育園がなくていいのか私は全然分かりませんが。

やっぱり保育園の時代に園庭で遊んだり、たまにはもっと広い場所に行って、自然豊かなところで遊ぶ、それが本当に子どもの発達の基礎をつくると思うんです。その一番大事な部分を私はすごくないがしろにしているということが、すみません、制度の問題に詳しくないので、そここのところが、この話を聞いたときに、一番おかしい、大丈夫なんでしょうか。

皆さん、小金井の子どもたちをととても大切に思っているというのは分かりますけど、じゃあどこを大切に思っているんですか。本当にそこが聞きたいです。緑はありますけれども、今のような保育園の子どもたちが安心して、本当は毎日外で遊びたいんですよ。そういうことがこれからちゃんと守っていただけるんですか。そこを、ぜひお聞かせ願いたいです。

○平岡保育政策担当課長 すみません、じゃあちょっと制度的なところを先にお話しさせていただきま  
すけれども、おっしゃるとおり、以前はそうでなかったかもしれませんが、やはり保育園に入れない方が多くという状況で、国のほうで規制緩和という言い方がいいのかどうか分かりませんが、制度を、基準を変えまして、あと園庭がなくても、ある程度の距離に公園なりがあれば、それで認めていくという制度に変わりました。小金井市の場合も、そちらのほうに舵を振り切ったわけではないんですけど、やはり園庭も含めて土地を確保するというのが、新しい園をつくっていくときは難しいという状況は現実的にありました。それでも、園庭含めて確保している保育園も、ある程度あるのは事実ですけども、保育園に入れない方々への対応をやはり優先することになりました結

果、園庭について全て整った形でということになりますと、なかなか難しい状況がありましたので、おっしゃるとおり園庭がない保育園も市内には確かにある程度の数があるというのは事実であります。

○西岡市長 民間保育園がかなり増えています。定数も1,700名だった平成27年、総保育園の定員約1,700名でした。来年は4,000名弱になります。その中で、増えてきたのは民間保育園で、認可保育園が増えました。

民間というと、全てが駅前であって、そして園庭がないというふうな、極端な誤解をもしされているとしたら、決してそうではなくて、もちろん駅前にも保育園あるんですが、民間保育園でも最近では園庭のある保育園がかなり増えています。ここ最近、第一中学校の近くにも2園開設しましたが園庭あります。また、緑町にも開設していただきましたが園庭はあります。もちろん駅周辺ということになれば、園庭がない保育園が増える傾向にあるのは、これはまた事実であります。

また、園庭の認識、園庭のある保育園が望ましいし、園庭のある保育園が段階的縮小によって廃園になってしまうことは、その価値としてはいかなものかというご意見につきましては、それはもちろん受け止めさせていただきます。そういう園庭のある保育園であっても、段階的な縮小から廃園ということを選択せざるを得ないのが、この方針案であることは、これは事実です。

したがって、市長としてここで申し上げることとすれば、園庭のない保育園のある状況もありますが、小金井市において可能な限り、子どもたちの育つ環境を、やっぱり、いい環境をつくっていききたいという思いは私も持っています。私もしょっちゅうですね、梶野公園に行って、たくさんの保育園の子どもたちが遊んでいたような姿を見えています。栗山公園でたくさんの子どもたちが遊んでいる姿を平日、見ております。

それを私は見たときに、もちろん、こういう状況を何とかしなければいけないし、改善しなければいけないという思いはもちろん持ちますが、しかし、この東京、小金井市といえども東京の中であって、待機児解消という大きな社会的な使命を果たしていく上では、やはり駅前中心の保育を、基本駅前を希望するという保護者の方がいるのも事実でありまして、私としては、その選択肢ですね、多様な選択肢があるということが、これはまた小金井の保育の中の一つの特性にしていきたいという思いも持っています。最近では、小金井公園の近くにも保育園が開設されまして、本当に小金井公園さんから近くてすばらしい環境だなと。それを選択するのは保護者の方であります。

なので、駅前を選ぶのも保護者の方でもありますので、こういう多様な選択肢を、やはり持っていくことが大切だと思います。本当に駅前希望する方が多いんです。保育園の中では、そのことは、どうかご理解いただきたいと思います。

しかし、園庭を希望する方もいらっしゃいますし、いい環境を選ぶ方もいらっしゃる。場所なのか、環境なのか、保育園の方針なのか。もうそれは様々な方針がある中で、保護者の方々がいろんな選択をされています。そのように今、ご答弁させていただきますが、園庭が大きな課題となっている、そういう認識、私自身も持っています。

また、多くの保育園の方々が散歩をしていただいています。私も最近、痛ましい交通事故があるので、子どもたちの安全を守るというですね、道路環境を含めて、安全を守っていくとの広い認識を持っています。

以上です。

○参加者

今の話を知ってですね、選択肢があることはいいと思います。でも、選択肢、減るんですよね、公立の。例えば、東町に住んでいる人が、より広い園庭のところに申し込みたいと思っても、ないじゃないですか。もっと北に行けというのはそうですけど、保育園を送り迎えしたこと、ありますか。毎日。朝も帰りも。これ雨が降ってもやるんです。びしょ濡れになって行ったり、私はお産の後、誰もなかなか手伝いがいなかったので、下の子をだっこしながら保育園に、上の子は歩かせて、3歳の子は歩かせて通ったんですね。それに遠いところに行けというんですか。園庭が好きだったら遠いところに行きなさいという、そういうことになるんです。私は、とてもこれは、よりよい環境を目指しているとは思えません。

それと、今の送り迎えの話に関係するんですけど、保育サービスの拡充概要（案）というのが出ていますけれども、例えば、これもやっぱり地域にあることが大事だと思うんですね。私が赤ちゃんと3歳の子を連れていくのは大変でしたけど、これ歩いて、雨の日30分かかりました。だけど、行くしかないので行きましたけど。怒るのが嫌いなので、何とかこらえて行きましたけど。これが障害児の子だったらどうなると思います。みんな車持っているわけじゃないんですよ。自転車、車で来るなという話を聞いたことがありますね。あと、自転車で連れていくんだって大変なんですよ。

だから、私はやっぱり地域に選べる、園庭がある園なり、障害児保育をやってくれる園が地域の近いところにあるということが大事だと思ってるんです。だから、子どものためによりよい環境をつくるという話と、この保育園を、今のところ2園ですか、これ

から廃園するというのは、全然、反対方向だと私は、どう聞いても思います。

○三浦保育課長 答弁をお願いします。

○西岡市長 ご自身も保育士のご経験があるということ、また、子育ての環境も含めて、様々なご指摘をいただきまして、ありがとうございます。

私自身も保育園で仕事をした経験がありまして、それは株式会社立の新設保育園でしたけれども、事務局、事務長という立場でお仕事をさせていただいて、勉強はさせていただきました。本当に貴重な経験です。

保護者の方々のご苦勞、もちろん今は私が子どもの頃のと看以上、いろいろな、何ていうんでしょうかね、子どもには様々な、私の頃にはなかったような気づきと言いましようか、臨床心理士の方も関わっていただいたり、本当に子どもたちの発育のことを心配しながら、多くの保護者の方が、全ての保護者の方々が大切な命を育みながら仕事と子育てと、そして、保育園の送り迎えと、本当に言葉がうまく表現できませんが、大切な命を育むためにどれほど頑張っているのか、そのことは痛切に感じています。そういう経験があるからこそ、私も小金井の子育ち・子育て・教育環境の向上には何としても寄与していきたいという思いでこの間、いろいろな施策を務めてきたところであります。

しかし、ご指摘の、もちろん園庭の存在は十分理解をしているのでありますけれども、その園庭ということのみ、1点にのみ絞ってですね、市全体に関わるような小金井市の保育業務の総合的な見直し方針案ということを出すということはなかなか難しかったということは、どうかご理解いただきたいと思ひますし、大変厳しい、苦しい判断をしなければいけない、これだけのご意見をいただきながらもですね、私としては、この方針案について説明をしていくということをしなければいけない、今の小金井市の置かれている状況ということがあるということも、どうかご理解をいただきたいと思ひます。

○三浦保育課長 すみません。お待たせしました。

○参加者 あのですね、私立保育園の件で。来年はできますよね、駅前に施設。

○西岡市長 4園です。

○参加者 4園でしょう。

○西岡市長 はい。駅前だけじゃありません、いろんなところにできます。

○参加者 でも、それ以降、来年度以降、またすぐに、はい、いいよと言って半年後にできるわけじゃないんで、再来年、手を挙げている事業者があるんですか。それで、なぜそうい

うことを伺うかという、この間、コロナのこともありましたけどね、余ってしまう、席が空くというか、子どもの、とりわけ0歳も含めて、在宅でできる方は赤ちゃんを見ながらテレワークすることも含めて、ニーズが変わってきているじゃないですか。そのときに、その状況の中もあったけれども、来年度以降も、来年できるのはしようがないですよ、もっと前、多分ね、この以前に市のほうをお願いして、某いろいろやっているところをお願いして、つくっちゃったわけで。

だけど、再来年以降ね、やはりきちっと、先ほども意見出ましたよね。ほら、歩きなさいよ、もうとかね。ああいう保育者になっちゃうというのは、労働条件が悪いからですよ。含めて、本当にちゃんと保育課がチームを組んでやるんだったら、私立認可園の状況は、いや、ちょっと数ぐらいしか分かりませんじゃ困るんですよ。だから、本気で本気でいろいろ保育の質の向上を図るのであれば、非常にいっぱい取り組まなきゃいけないことあると思うんです。

だから、まず再来年度に手を挙げていくところがあるかないか。もう4,000近くつくった、待機児童、まだまだなぜか流入してきていますけども、でも多分出ていく人もいると思うんです。だから、マックスぐらいになっていると思うんですけども、まずそういうものに、新設の認可園を再来年度以降、計画がありやなしやということと、あと1点言わせてください。

多様な選択肢があるとおっしゃった。選択肢はないです。ないんです。だって、いや応なく長時間労働になり、病児保育がない、いろんなことで女性たち、取りわけ、まあイクメンも増えていますが、市長もイクメンになりますよね。

でも、悪いけど、多様な選択肢と言わないでください。選ばされているだけなんです。人権、ないです、子どもの。子どもは選べない。本当に不幸なことがいっぱい起こっているじゃないですか。それは、もう市の問題だけじゃないですよ。国策も含めて。

子どもが本当に笑顔で育つような現場を本気でつくりたいんだったら、まず、この方針案を見直してください。ゼロベースでもう一遍、本当に理屈に合うことであれば、できるわけですよ。もう行革外してください、子育てに関しては。そんなことを言っていたら子どもどんどん死にます。心が死んでいく。なので、それはお願い。

一つだけ答えてください。私立の認可園を再来年度以降、計画しているか否かだけ、お答えください。

○平岡保育政策担当課長 保育園の計画なんですけど、5年ごとにつくっています。ご存じだと思うん

ですけど。令和5年と令和6年については、つくらないという、今見直しをかけている最中です。

○参加者 かけている最中。

○平岡保育政策担当課長 はい。ただ、令和7年以降は計画がないので、市長のほうから一旦立ち止まるという発言は、この間もしていますけれども、計画上は7年度以降はつくるもつからないも、そもそも計画がないので、お答えしようがないというのが答えかなと思っています。ただ、再来年と……。

○参加者 西暦で言ってくれないかな。

○平岡保育政策担当課長 西暦が2023年、2024年については。

○参加者 年度。

○平岡保育政策担当課長 年度については、新しい園をつくるという計画はないという考え方に今なっています。

○参加者 で、それ以降は何もない。

○平岡保育政策担当課長 それ以降は、また計画をつくるのでということです。

○参加者 分かりました。ありがとうございました。

○三浦保育課長 よろしいですか。

○参加者 はい。

○三浦保育課長 では、すみません。ちょっと時間が40分ぐらい過ぎてしまいました。

本日はご参加いただきまして、ありがとうございました。本日の会議録につきましては氏名等に配慮させていただきまして、保育ホームページで公表させていただきます。ご了解ください。

本日もお忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございました。

閉 会